

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2018年度)



サンゴ化石のヒメシロチョウ







---

# 地質標本館の来場者 アンケート分析 (2018年度)

2019年12月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
地質調査総合センター 地質情報基盤センター

---



## 要旨

地質標本館におけるアウトリーチ活動の PDCA サイクルの構築（特に CA）を進めるため、2018 年度に地質標本館で集積した特別展、及びそれらの間の常設展示のみの期間ごとの展示に関する入館者の無記名アンケートの分析を行った。この分析は毎年度ごとに実施しており、2018 年度の分析を通して、地質標本館に対するユーザーのニーズを把握するとともに、その結果をもとに、今後のアウトリーチ戦略策定の基礎材料としていく。

分析項目は 2016 年度途中から始まった項目を継続している。大まかには、来館者自身に関わる情報（年齢、居住地など）、館内展示に関する情報（展示内容、展示設備など）、館内環境に関する情報（空調、照明など）、解説サービスに関する情報（見学案内、QR コードなど）、及び全体的な感想などからなる。

展示や館内環境に対する満足度は前年度に続き概ね高い評価を得ている。興味を持った展示は、鉱物・化石、地震・活断層、地質学一般、鉱業・資源工学などが多い。改善要望も同様に展示設備の修理・改善、館内環境の改善、わかりやすい解説が比較的高い。現在改修が徐々に進められているが、大規模改修計画との兼ね合いであまり手をつけられないものが対象となっている。館内環境についての要望は、室温や室内の明るさなど、個人による感じ方の違いのあるものが多い。

これらの要望と今後の対応策に関する情報は、引き続き地質調査総合センター（以下「GSJ」とする）のアウトリーチ拠点としての地質標本館の運営・施設改修へつなげるための一次データとして利用する。

## 1. はじめに

本報告は、地質標本館に来館された方々からアンケートへのご協力をいただき、2018年度分について取りまとめたものであり、基本的には前年度までの報告（地質情報基盤センター，2016a, b, 2017, 2018）に沿ってデータ集としてまとめている。一方、一般向けにはGSJ地質ニュースに取りまとめたものを報告している（森尻ほか，2015, 2016, 2017; 辻野ほか，2018）。技術資料集での取りまとめの目的は、前報告書に記したとおり、地質標本館におけるアウトリーチ活動のPDCAサイクルの実施（特にCA部分）である。

これまでの報告書でも度々指摘して記しているように、回収されたアンケートに書かれたコメントは必ずしも全来館者の平均的な感想とは言えないことを前提として分析する必要がある。しかしながら、アンケートに記されているコメントは、ユーザーのニーズを知るための貴重な一次情報であると認識した上で本報告をまとめた。これまでの報告を含めて、今後、「地質標本館のニーズ分析」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等へ活用し、そしてアウトリーチ活動に関わるGSJの各研究部門の研究者にフィードバックすることで、一般向けの展示物作製やその他の研究成果普及活動の後押しとなることを期待する。合わせて、今後のGSJのアウトリーチ戦略策定の基礎資料になるものと思われる。

## 2. アンケートの取りまとめ

2018年度の地質標本館での特別展示・臨時展示（第1表）は、研究戦略部研究企画室国内連携グループが主導し、地質標本館室との調整をしながら企画されている。2018年度は4つの特別展示が開催されている。

取りまとめの方針は、前報告書と同様、それぞれの項目の集計を行うことで、「一般の人から地質標本館に求められているもの（ニーズ）」、「展示企画立案」、「標本館グッズ開発」等に関する情報を抜き出し整理した。それらを図示し、前報告書と構成も含めて視覚的に対比できるようにした。

また、GSJの第4期中長期計画では、以下の4つの研究戦略が挙げられており、アンケート結果の分析にはこれらの戦略課題との対応も考慮しているが、明示しているのは前回までと同様に戦略課題1～3のみである。

研究戦略1：地質情報の整備

研究戦略2：レジリエントな社会基盤の構築に資する地質の評価

研究戦略3：地圏の資源と環境に関する評価と技術の開発

研究戦略4：地質情報の管理と社会利用促進

第1表 2018年度の特別展示・臨時展示一覧

展示時期	特別展タイトル
3月27日-4月15日	常設展のみ ※1
4月17日-8月19日	地質標本館 2018年度 春の特別展 「関東平野と筑波山-関東平野の深い地質のお話-」 ※2
8月21日-11月18日	地質標本館 2018年度 特別展 「地球の時間、ヒトの時間 -アト秒から46億年まで35桁の物語-」 ※3
11月20日- 2019年2月17日	地質標本館 2018年度 特別展 「明治からつなぐ地質の知恵 北海道の地質 -北海道命名150周年-」 ※4
2月19日-4月14日	地質標本館 2018年度 特別展 「GSJのピカイチ研究 -2018年のプレスリリース、主な研究成果より-」 ※5

以降、特別展タイトルは次のように略記する。

※1 「常設展」

※2 「春展・筑波山」

※3 「地球の時間」

※4 「北海道の地質」

※5 「ピカイチ研究」



### 3. アンケート内容の分析結果と個別対応案

アンケートの回収数は、期間内の総計は 2,585 件である(2017 年度は 2,600 件)。2018 年度の来館者数が 49,919 人であるので、約 5.2% の回収率になる。なお、この間の団体入場者は 12,078 人で全来館者数の約 24% を占めている。団体客や学校単位での来館においては、来館者の見学時間を確保するために、引率者のみにアンケートに回答するようお願いしている。

以下、アンケート内容(第 2 表)の順に沿って、各項目の集計結果を見ていく。

#### 3.1 全般的な満足度

最初に、来館された方々が館内で感じたことについて見てみる。まずは館内での見学全般を通してどう感じていただいたかという質問である。回答を見ると、大半が満足とあり、やや満足を含めると回答を記入していただいた方の 99% に満足していただいている(第 1、24 図)。不満足、やや不満足と回答した方については、昨年度と同様、もともと興味のない方、たまたま空調設定があつていなかった方、機器の調整時期に重なった方などのようである。

#### 3.2 満足度(次回への期待度)

また機会があればご来館いただけるかどうか(次回への期待度)の質問に対して、回答を記入いただいた方の 90% 近い方が「ぜひ来たい」、「できれば来たい」の積極的な回答、10% ほどの方が「来るかもしれない」で、「もう来ない」はごくわずかである(第 2、25 図)。「もう来ない」と回答された方を見ると、遠方から来館された方やご高齢の方のようである。

#### 3.3 回答者の年齢層、居住地

回答者の概要を考える参考として、年齢層と居住地を見てみる。

回答者の年齢層(第 3、26 図)の傾向を見ると、19-29 歳、30 歳代の割合が 2017 年度に比べて若干小さくなっており、逆に 40 歳代の割合が大きくなっている。これは、前述したように学校単位の団体の場合は、引率者のみのアンケートの回答をお願いしていることを反映しているものと思われる。全体として 40 歳代の回答者がやや多く、19-29 歳の回答者がやや少ないものの、その他の世代は、ほぼ拮抗している。

居住地に関連する情報(お住まい)を見ると、これまでと同様、茨城県外が多数を占める(第 4、27 図)。これは、これまでと同様に研究学園としてのつくば観光の一施設として訪れる人が多いことを意味していると思われる。全体の来館者数の地域別来館者の推移(第 22 図)を見ると、全体的に増加しているので、圏央道の茨城県内全開通の恩恵も考えられる。2015 年度以降、つくば市内からの来訪者が着実に伸びている傾向は継続している。

第2表 2018年度アンケートの内容

<p>1. 本日で見学頂きました地質標本館は、いかがでしたか？ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>2. またご来館いただけるでしょうか？ ①ぜひ来たい／②できれば来たい／③来るかもしれない／④もう来ない</p>
<p>3. お客様ご自身について 「性別」①男／②女 「年齢」①18歳以下／②19～29歳／③30歳代／④40歳代／⑤50歳代／⑥60歳代以上 「お住まい」①つくば市内／②茨城県内（つくば市以外）／③茨城県外</p>
<p>4. 今回のご来館のきっかけとなるもの（複数可） ①地質標本館公式ウェブサイト／②インターネット（ブログ、SNS等）／③掲示ポスター・チラシ／④新聞・雑誌・テレビ／⑤知人の紹介／⑥その他</p>
<p>5. ご興味を持った展示テーマ（複数可） ①鉱物／②化石／③岩石／④地震／⑤火山、温泉／⑥資源、環境／⑦地質学一般／⑧その他</p>
<p>6. 展示物について（各々4段階で回答） (1) 展示の仕方や表示方法（パネル、ラベル等の説明）はわかりやすかったですか。 (2) 展示機器の使い勝手はいかがでしたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>7. 建物やサービスについて（各々4段階で回答） (1) 受付の対応はいかがでしたか。 (2) 案内表示（順路、トイレやエレベーター等）はわかりやすかったですか。 (3) 館内の明るさはいかがでしたか。 (4) 館内の空調の温度設定はいかがでしたか。 (5) 展示物、展示室、トイレ、洗面所及び通路の清掃は行き届いていましたか。 ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>8. 利用した解説サービスについて（各々4段階で回答） (1) 説明員の解説 (2) QRコード (3) 標本館クイズ ①満足／②やや満足／③やや不満足／④不満足</p>
<p>9. 当館へのご希望、ご意見があればお聞かせください。（例）特別展についての感想・ご要望、ミュージアムグッズ、イベントの内容等</p>

### 3.4 来館のきっかけ

特別展示やイベントの案内は地質標本館のウェブサイトや産総研の公式ツイッターなどで行っている。ポスターは所内で A2 サイズに出力して、つくばエキスポセンターなど、つくば市内及び近隣の公共施設に掲示を依頼している。また、近隣の学校などにはチラシを配布している。第 5、28 図を見ると、地質標本館ウェブサイトやインターネットの割合が昨年度に比べて大きくなっている。現在はインターネットを通じて多様な伝達手段があり、その効果が出ているようである。今後、ネットワークを通じたイベント等の案内が増加する傾向にあると考えられる。ただし、従来型のポスター・チラシは、関心がない人々にもイベント等を知るきっかけとなり得るので、それらの配布も継続するべきである。これに比べて、「その他」の割合が小さくなっている。「その他」が何を示しているのかは問うていないので、この意味については正確に分析できないが、当日たまたま産総研内に用事があったので寄った、あるいは近くに来たので立ち寄ったという方もかなり多いようである。

### 3.5 興味を持った展示テーマ

ここでは、「興味を持った展示テーマ」を、その他を含めて 8 つのキーワードでの選択式として、複数回答可とした。その他として回答のあったものに、記入式で具体的な展示物などを書いていただいた。集計においては、2016 年度の分析で用いた手法（地質情報基盤センター，2017, p.7）を、2017 年度と同様に適用した。2015 年度の報告で選定した、戦略課題と関連付けられたキーワード（地質情報基盤センター，2016a）と、「その他」で自由記述された展示物などを結びつけて拾い出し、「興味を持った展示テーマ」として表示した（第 6、29 図）。わずかな違いで必ずしも有意な差とは言えないが、特別展「春展・筑波山」および「地球の時間」開催中の地震・活断層に対する関心が高くなっている。開催期間中に発生した大阪府北部の地震や北海道胆振東部地震の影響かもしれない。「北海道の地質」展開催期は、北海道の地質情報展のやり直しを企画していたことから、地質情報展に対する関心が高くなっている。

### 3.6 展示物について

展示物については、展示の仕方、機器の使い勝手などについて、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の 4 段階で回答をしていただいた。集計結果は第 7、8 図、第 30、31 図にあるように昨年度同様概ね満足のようなものである。

### 3.7 建物やサービス

建物やサービスについては、受付の対応、案内表示、館内の明るさ、空調の温度設定、館内各所の清掃状況について、①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足 of 4 段階で回答をすることになっている。この 5 つの質問に対する回答の集計

結果は第 9～13 図、第 32～36 図で示しており、例年通り概ね満足となっている。上記の「3.6 展示物について」も含めて、それぞれの項目に自由意見欄があるが、ここでの記述があれば集計・分析においては後述の「3.9 ご意見、ご要望」で取りまとめることとしている。

### 3.8 利用した解説サービス

地質標本館として提供している解説サービスには、(1) 館スタッフによる予約団体への説明解説、(2) スマートフォンやタブレット利用による QR コード解説システム、(3) 紙資料による館内クイズの3種類がある。これも①満足、②やや満足、③やや不満足、④不満足の4段階での回答となっているが、合わせて3つのサービスまとめた自由意見欄もあるが、集計・分析は後述の「3.9 ご意見、ご要望」と合わせて取りまとめる。集計結果は第 14～16 図、第 37～39 図に示す。利用したかどうかの回答総数は 2,577 件で、このうち解説サービス利用は 1,189 件（併用されている方もおり、延べにすると 2,301 件）となっている。QR コード解説システムによる日英の文字及び音声解説もあり、利用された方からは良い感触を得ているものの、やや不満足と回答された方の割合が昨年度に比べてわずかに大きくなっている（第 15 図）。これは、このシステムが館内に閉じた無線 LAN となっているために、最近のスマートフォンには、このようなネットワーク環境では受信できない OS 搭載機種が増えてきていることによると考えられる。このため、館内に公衆 Wi-Fi を導入することを検討している。

### 3.9 ご意見、ご要望

最後に自由記述で、全体のご意見、ご要望をうかがうこととしている。ここでの記述は、地質標本館に課せられた役割と照らし合わせながら今後の参考とするものである。

これまで、自由意見として寄せられた内容を、2015 年度までの報告書（地質情報基盤センター, 2016a）に従って以下の 12 のキーワードに整理してきており、今年度もそれに沿って整理した（第 17 図）。

- ①展示物の更新・入れ替え
- ②解説内容の充実・修正
- ③わかりやすい解説・子供向け解説
- ④質問対応・解説案内者の充実
- ⑤展示設備の修理・改善
- ⑥体験型展示
- ⑦動線の改善
- ⑧館内の環境改善
- ⑨PR 強化
- ⑩ミュージアムショップ

- ⑪他機関との連携
- ⑫その他（地質標本館外の要因）

それぞれのキーワードにまとめられた分布の割合は昨年度とほぼ同様であるが、解説内容の充実・修正の割合がやや小さくなっていることが異なる。それぞれのキーワードとその中で整理された意見で目についた事例を第3表に示す。これらの自由意見の要望については、既に対応済みのものも多数あるが、現在地質標本館の大規模改修計画に沿って進めている今後の改修の検討内容に寄与できる事項が多く含まれている。

①「展示物の更新・入れ替え」の展示してほしいテーマへの要望のうち、過去には改修した事に気付かず指摘されたものもあった。そのため、インフォメーションコーナーで展示改修の情報を掲示することにした。第1展示室の目玉である日本列島の大型地質模型がリニューアルされたことで、印象が強くなっているようであり、昨年度に比べて、要望の数としては少なくなっている。最新の情報の展示を期待する声がかつてきたが、1階ロビーにトピックスコーナーを新設し、ここでGSJホームページ上でプレスリリースされた内容の紹介をしている。地元の地質に関するコーナーの要望について、2017年度から2階テラスを中心に筑波山地域ジオパークや茨城県内の岩石・鉱物を集約したコーナーを置いている。このコーナーを中心にして、筑波山地域ジオパーク推進協議会によるツアーガイドが月2回のペースで開催されており、アンケートの要望においても、このコーナーの関心が高いものと思われる。館内の化石や鉱物などの展示を増やして欲しいという要望も依然としてあるが、館内スペースと関連もあり、これ以上は難しいと考えている。その代わりに、特別展などの開催でいろいろなものを見ていただきたいと考えており、今後も検討を重ねていきたい。

②「解説内容の充実・修正」と③「わかりやすい解説」については、同じものを見ても簡単と思う人と難しいと思う人がいる。両方を満足させるのは難しいが、専門家・知識が多い人向け、一般の非専門家向け、小～中学生程度向けといったように、入館者のレベルに応じた見学コースを用意してある。2017年度から、大学生などによる博物館実習や中学生の職場体験等の研修を通じて、見学コース作りを模索しているところであり、受付に数種類の見学コース例を置いているのでご利用いただきたい。なお、地質標本館はGSJの広報施設かつ研究所の展示施設としての役割があるため、ある程度専門家が満足することも必要である。

昨年度に比べてこの項目の改善要望がわずかながら減少していることは、QRコード解説システムや館内見学ガイド（冊子貸与）などの提供が、少しずつ来館者に浸透していると考えられる。英語解説の提供についても、QRコード解説システムや館内見学ガイド（冊子貸与）によって少しずつ増やしているが、気がつかずに済まされている方も多いため、今後周知できるように考えてい



第3表 自由意見の中の改善要望

①	展示物の更新・入れ替え	全国県別の展示。
		火山についての展示をより増やしてほしい（各地の溶石や山体断面図など） 鉱物をもっと増やしてほしいです。 常設展示にもう少しせきつ動物化石標本の展示が欲しい！
②	解説内容の充実・修正	映像の解説が多い方が分かりやすいかと。 私の知識がないため、説明の文言が分からないこともありました。 鉱物、化石、岩石のくわしい説明があればいい。 ご研究成果のチラシがもう少しあってもよいように思いました。自由に持ち帰ることができれば広義に活用したり家族に話したり出来ます。 当館の種々の部門の解説書があればよい（有料でよい）とくに我々の住んでいる大地の地層、地形について知りたい 専門的すぎる
		漢字表記の説明が多いので、もう少しルビなどをふってお子さんにも分かりやすくしてあげると良いと思います。 5才は利用しづらかったです。 小学生用のパンフやクイズの充実を求めます。 もう少し子どもむけ解説もふやしてもらえるとうれしい。 聞きたいことありましたが人がいなくて聞けませんでした ガイドの方の説明があるところが多いですがそのようなものがあると分かりやすいです。 せっかくいるので職員の説明ツアーをしてほしかった。以前サイエンスツアーで来た時説明を聞いたので今回はざんねん。 休日も学芸員が居てくれると有難い 説明員さんの個性をもっとだしてほしいです。面白かったです。
③	わかりやすい解説・子供向け解説	故障が多い。 字が小さい。／字がうすいものがありました。 QRコードを使ってみましたが、なかなかひらきませんでした。 Wi-Fiがつかない所あり QRコードについてWifi設定が必要なることをもう少し大きく、多くの場所に書いて欲しかったです。 背が低くて見えない物は、ふみ台ほしいです。 勉強スペースがあればよかった プロジェクションマッピングがイマイチ。流行に乗っただけ 利用者視点ではない 富士山が動かず残念。 「地質図の世界」のパソコンで「シームレス地質図VZ」も見られると便利だと思います。 音声解説等があると嬉しいです。
		スタンプラリーにした方が良いと思う ループで見てもよくわからない。 岩石化石に触れる展示がない。 講演とかがあればまた来たい。 もう少し子供の楽しめるイベントや展示物があるとうれしいです。 たまたま訪れましたところ、アンモナイトのレプリカを作るイベントに参加させて頂きとても楽しかったです。子供もとても喜んでいました。 これからもこのようなイベントを設けて下さるとうれしいです
④	質問対応・解説案内者の充実	スタンプラリーにした方が良いと思う ループで見てもよくわからない。 岩石化石に触れる展示がない。 講演とかがあればまた来たい。 もう少し子供の楽しめるイベントや展示物があるとうれしいです。 たまたま訪れましたところ、アンモナイトのレプリカを作るイベントに参加させて頂きとても楽しかったです。子供もとても喜んでいました。 これからもこのようなイベントを設けて下さるとうれしいです
		順路わかりにくかった。 エレベーターが分からなかった 2階にいるときトイレの位置がわかりにくい コインロッカーがあることを伝えてくれるとよかった（途中で自分で気づいたけれど）。 第1展示室への順路案内が少しわかりづかい
⑤	展示設備修理・改善	少し寒い。 あつい。 年寄りにはやや暗いか 明るくて目がちかちかする。 図書コーナーの充実を望みます。 混んでいる際のベンチは不足気味。 パネル数を減らして見学スペースを広くすること。 ちょっと空調の音が気になりました
		このような素晴らしいところ今まで知らなかったです。もっと多くの方に知ってもらえるよう希望します 当館の種々の部門の解説書があればよい（有料でよい）とくに我々の住んでいる大地の地層、地形について知りたい。 地方密着型のイベントでまずはくば市民が標本館の価値を認識すべきである。 ミュージアムショップで鉱物、化石の販売を希望します。 非常に面白かった。是非、展示解説の図録を作ってもらえるとありがたいです。 もっとグッズを充実させてほしい。 化石チョコが地質標本館で買えると嬉しい。 青柳標本のカタログが欲しいです。 元素記号ポスターが欲しい（らしい）。
⑥	体験型展示	少し寒い。 あつい。 年寄りにはやや暗いか 明るくて目がちかちかする。 図書コーナーの充実を望みます。 混んでいる際のベンチは不足気味。 パネル数を減らして見学スペースを広くすること。 ちょっと空調の音が気になりました
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。
⑦	動線の改善	ゆっくり時間ない。「モッタイ」無い 事前の打ち合わせができなかったためその場で設定していただきたい（郊外学習）。 産総研の門での案内が分かりづらかったです。本日のような多くの方の来場がある場合車の案内をスムーズにしてほしいと思いました。 駐車場が若干少ないです 地質学に関する本のしょうかいなどもほしかったかなと思いました。家でも知るきっかけになれば一 この館は都心にあるべきだね。 天井展示については2～3分以上上を向くことが出来ない。（多人数でカガミが利用出来なかった） 年に何回か企画展を作りたい。（今年なら集中大雨、津波、地震の特に大事件なもの。） 地質標本館という名称でなくエネルギー、地震に関するリーフレットがあれば良かった。 停電は残念でした。また来たいと思います。 雨の日だったのでサイエンススクエアつくばからの移動に関して屋根があるとありがたいと思いました。 北海道の地質や地震に関するリーフレットがあれば良かった。 茨城の岩石、鉱物をカタログ化してほしい。
		少し寒い。 あつい。 年寄りにはやや暗いか 明るくて目がちかちかする。 図書コーナーの充実を望みます。 混んでいる際のベンチは不足気味。 パネル数を減らして見学スペースを広くすること。 ちょっと空調の音が気になりました
⑧	館内の環境改善	少し寒い。 あつい。 年寄りにはやや暗いか 明るくて目がちかちかする。 図書コーナーの充実を望みます。 混んでいる際のベンチは不足気味。 パネル数を減らして見学スペースを広くすること。 ちょっと空調の音が気になりました
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。
⑨	PR強化	ゆっくり時間ない。「モッタイ」無い 事前の打ち合わせができなかったためその場で設定していただきたい（郊外学習）。 産総研の門での案内が分かりづらかったです。本日のような多くの方の来場がある場合車の案内をスムーズにしてほしいと思いました。 駐車場が若干少ないです 地質学に関する本のしょうかいなどもほしかったかなと思いました。家でも知るきっかけになれば一 この館は都心にあるべきだね。 天井展示については2～3分以上上を向くことが出来ない。（多人数でカガミが利用出来なかった） 年に何回か企画展を作りたい。（今年なら集中大雨、津波、地震の特に大事件なもの。） 地質標本館という名称でなくエネルギー、地震に関するリーフレットがあれば良かった。 停電は残念でした。また来たいと思います。 雨の日だったのでサイエンススクエアつくばからの移動に関して屋根があるとありがたいと思いました。 北海道の地質や地震に関するリーフレットがあれば良かった。 茨城の岩石、鉱物をカタログ化してほしい。
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。
⑩	ミュージアムショップ	ゆっくり時間ない。「モッタイ」無い 事前の打ち合わせができなかったためその場で設定していただきたい（郊外学習）。 産総研の門での案内が分かりづらかったです。本日のような多くの方の来場がある場合車の案内をスムーズにしてほしいと思いました。 駐車場が若干少ないです 地質学に関する本のしょうかいなどもほしかったかなと思いました。家でも知るきっかけになれば一 この館は都心にあるべきだね。 天井展示については2～3分以上上を向くことが出来ない。（多人数でカガミが利用出来なかった） 年に何回か企画展を作りたい。（今年なら集中大雨、津波、地震の特に大事件なもの。） 地質標本館という名称でなくエネルギー、地震に関するリーフレットがあれば良かった。 停電は残念でした。また来たいと思います。 雨の日だったのでサイエンススクエアつくばからの移動に関して屋根があるとありがたいと思いました。 北海道の地質や地震に関するリーフレットがあれば良かった。 茨城の岩石、鉱物をカタログ化してほしい。
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。
⑪	他機関との連携	ゆっくり時間ない。「モッタイ」無い 事前の打ち合わせができなかったためその場で設定していただきたい（郊外学習）。 産総研の門での案内が分かりづらかったです。本日のような多くの方の来場がある場合車の案内をスムーズにしてほしいと思いました。 駐車場が若干少ないです 地質学に関する本のしょうかいなどもほしかったかなと思いました。家でも知るきっかけになれば一 この館は都心にあるべきだね。 天井展示については2～3分以上上を向くことが出来ない。（多人数でカガミが利用出来なかった） 年に何回か企画展を作りたい。（今年なら集中大雨、津波、地震の特に大事件なもの。） 地質標本館という名称でなくエネルギー、地震に関するリーフレットがあれば良かった。 停電は残念でした。また来たいと思います。 雨の日だったのでサイエンススクエアつくばからの移動に関して屋根があるとありがたいと思いました。 北海道の地質や地震に関するリーフレットがあれば良かった。 茨城の岩石、鉱物をカタログ化してほしい。
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。
⑫	その他	ゆっくり時間ない。「モッタイ」無い 事前の打ち合わせができなかったためその場で設定していただきたい（郊外学習）。 産総研の門での案内が分かりづらかったです。本日のような多くの方の来場がある場合車の案内をスムーズにしてほしいと思いました。 駐車場が若干少ないです 地質学に関する本のしょうかいなどもほしかったかなと思いました。家でも知るきっかけになれば一 この館は都心にあるべきだね。 天井展示については2～3分以上上を向くことが出来ない。（多人数でカガミが利用出来なかった） 年に何回か企画展を作りたい。（今年なら集中大雨、津波、地震の特に大事件なもの。） 地質標本館という名称でなくエネルギー、地震に関するリーフレットがあれば良かった。 停電は残念でした。また来たいと思います。 雨の日だったのでサイエンススクエアつくばからの移動に関して屋根があるとありがたいと思いました。 北海道の地質や地震に関するリーフレットがあれば良かった。 茨城の岩石、鉱物をカタログ化してほしい。
		ぶらタモリとのコラボ。 恋する小惑星とのコラボ。 世界樹の迷宮（アトラス）とのコラボイベントがあればおもしろそうだと思います。

きたい。一般向け（小学校高学年以上が対象）の補完的な順路ガイドや見学の要点を説明する手段として、館内クイズを受付の脇に置いており、その利用を促しているところである。「おすすめ標本ストーリー」などの紙資料での情報提供も一般向けの補完説明として有効なので、継続して「ストーリー」の提供をしていきたいと考えている。ウェブサイトのキッズページにある地質漫画をプリントアウトして受付や2階休憩室の標本館文庫にしていることも改善と感じていただいているのかもしれない。

④「質問対応・解説案内者の充実」については、説明員の確保をどうすべきかを検討しなければならないことは引き続き懸案である。現状は、平日の予約団体に対してのみ、説明員が館内を案内している。すなわち、休日の入館者、平日の個人来館者に対する対応を具体的に検討する必要がある。

休日の入館者に対する対応については、職員による説明対応は難しいものの、上述したように筑波山地域ジオパーク推進協議会との協働で月2回程度ではあるが館内ジオパークツアーを実施しており、好評である。加えて、つくばサイエンスツアーオフィスが休日にガイド付きツアーを行っており、地質標本館職員では手薄となっている部分を補ってもらっている。また、近年は地質標本館での体験学習イベントを休日に企画・開催するようになっており、この際には職員も出勤しているので、展示室での質問等に応える機会が以前よりは増えている。

地質の日（5月10日）や茨城県「県民の日」（11月13日）の関連イベントとして、平日の個人向けガイドツアーを実施している。これを拡大する形で、2019年度半ばからは、毎月最終金曜日（夏休み期間にあつては毎金曜日）に個人向けガイドツアーを試行しており、好評を得ているところである。このような取り組みを正規のサービスとして位置づけられるか、前向きに検討する必要があるだろう。

⑤「展示設備修理・改善」については、地質情報基盤センターとしてGSJ運営会議に諮った地質標本館ビジョンや地質標本館大規模改修タスクフォースと提案した展示改修計画に沿って現在改修が進められているところであり、2018年2月末に、その一つとして、第1展示室の日本列島大型地質模型がプロジェクションマッピングの展示としてリニューアルされた（産総研プレス発表、2018年2月19日）。初見の方にはスケールの大きな展示で概ね評判が良いが、まだ改善点もあり、今後引き続きコンテンツの追加や修正をしていく予定である（2018年度に、音声ガイダンス追加の改修を実施した）。このほかの展示も少しずつ改修を進めている。なお、軽微な故障等については日々の点検とともに修繕を進めている。展示の中には老朽化しているものもあり、タイミング悪く故障している時期に来館された方からの指摘も多い。

⑥「体験型展示」については、地盤液状化実験ボトル「エキジョッカー」などの展示も一部あるが、常に担当者が付いていなければならないものは現状のスタッフ体制では難しいのが実情である。上記の日本列島大型地質模型のプロジェクションマッピングにおけるタッチパネルを使った説明展示などもあるので、利

用促進を図るための方策を検討中である。また、第1展示室の関東の地質のコーナーに首都圏の地下構造（埋没谷）の模型を設置したことも、来館者には好印象を与えているのではないかと考えている。2019年度からは、断層の動きを見るための簡易模型も設置しており、効果を見守っているところである。⑫「その他」にも関係する、各種体験学習イベントの開催要望については、夏休みの子供向けイベントに加えて、2018年6月と2019年1月に砂の体験イベント、2018年10月と2019年3月末に化石レプリカ作成体験イベントを実施して、好評を得た。今後も幾つかのイベントを定期的に行っていきたいと考えている。

⑦「動線の改善」については既に各所に表示が設置されていたが、展示室前の床にも大きなサインを表示し、また、館内パンフレットにもフロアマップが掲載されており、徐々に表示が増えており、それほど問題はなくなっていると考えている。なお、当館では、特別展を1階ロビーのフロアを使用して開催していることから、この期間のロビーの見通しが良くないことも依然として表示を増やすことの要望につながっているものと思われる。

⑧「館内の環境改善」については、空調や照明の要望が多いが、これらは個人による感じ方の違いに依存すると考えられる。このうち、空調(室温)については、受付に伝えていただくことで常に対応している。館内の照明が暗いという意見については、2017年度末にリニューアルした日本列島大型模型のプロジェクションマッピングの導入で第1展示室内を暗くする必要が生じたことに起因するものが多いようである。トイレの増改築に関する要望は、現実的には対応が難しい。カフェなどの設置要望があるが、2階休憩コーナーにある自動販売機の利用をお願いしているところである。ロッカーなど、既存施設に気づかずにおられる方もいるようで、これまで記述してきたことも含め、疑問点があれば受付に気軽に尋ねられるよう工夫したい。

⑨「PR強化」については、来館者数増加策のために即時に対応すべき点であることはこれまでと変わらない。当館としては、地質情報基盤センターとして地質標本館のウェブページの充実をはかるとともに、産総研の公式ホームページやツイッターなどにより、地質標本館を会場としてイベントを行う場合や新たな展示物が入った場合に、発信の機会を多くしている。さらには⑪「他機関との連携」も考慮に入れながら、可能な限りいろいろな手段を使って積極的に宣伝を進めている。身近な連携先の機関の一つとして、筑波山地域ジオパーク推進協議会にもイベントを中心にPRを含めて引き続き協力をお願いしている。近年、NHKの番組「ブラタモリ」で地形や地質への興味が高く、連携を推奨する意見もある。また、一般向けの地学関係の漫画企画やオンラインゲーム企画などもあり、そこでも地質標本館の名前を取り上げていただける機会があり、今後もその機会が増えて宣伝していただけると嬉しいと考えている。また、テレビ取材などの機会には引き続き積極的に応じている。

⑩「ミュージアムショップ」については、市販品の販売を求める声もあるが、

現状では今の体制では実施しない。グッズの種類を増やす要望については、少しずつ対応しており（森尻ほか, 2016）、地質標本館ウェブサイトでも案内している。鉱物や化石の標本などの販売を期待する声も依然としてあるが、研究資料として岩石等を扱う研究所の博物館でもあり、また、ジオパークの学習施設となっていることもあり、販売は行わない。ミュージアムグッズは、産総研の規定範囲内で現在複数の有料頒布物の開発を行っており、今後もこの方針に沿ってグッズの開発を行っていく予定である。

⑫「その他」については、地質標本館あるいは GSI のみで対応できるものではなく、産総研としての対応が求められるものがある。例えば、継続的な懸念事項であるが、駐車スペースの充足や、産総研構内への入構について簡素化を望む声があるが、現実問題として実現は難しいところである。所在地が東京に近い方が良い、東京であるべきだという声も頂いているが、これはどうしようもなく、期待感の大きさに感謝する次第である。

#### 4. 来館者動向と今後の対応

地質標本館受付では、継続的に来館者の統計を取っている。2018 年度のデータを第 18～23 図に示す。

第 18～20 図に見られるとおり、7～8 月の夏休み期間は例年通り個人の来館者数が多いが、それ以外の時期では、団体での来館者数が 1/3～1/2 近くを占めることもある（第 18 図）。この傾向は、基本的にはほぼ毎年の傾向とも言える。7～8 月の個人の主体は小学生とその保護者である（第 19 図）。また、夏休みにつくば市内からの来館者が急増している（第 20 図）。

毎年の傾向であるが、夏休みに比べるとその他の各月の来館者数はかなり少ない。年間の来館者数の増加をめざし、かつ来館いただいた方々に満足して見学していただくためには、夏休みの来館者を増やすよりも、夏休み前の 6 月と夏休み終了後、そして特に 12 月～2 月の間に学校関係の団体を呼び込む工夫が引き続き必要と考えている（前年度と比較して 2018 年度はこれらの月でもわずかに増加している）。秋は全国の高校からの修学旅行やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）などの団体が多い。高校の団体には、特に地元の地質を中心とした展示説明をするようにしている。最近では、産総研の他領域からの見学依頼も増えてきており、説明対応依頼があれば積極的に対応しているところである。この場合も、専門分野に関係する話題や居住地などの地質情報も交えて説明している。全くの異分野ではあろうが、生活に身近な話題を提供することで地質に興味を持つ方が増えてくると幸いである。合わせて、最近では学会関連で産総研の施設見学も増えてきており、その一環として地質標本館の見学が組み入れられていることもある。季節の良い時期に学会開催が多いことから、今後も学校の夏季休暇以外の時期における学会関連の見学も期待できるのではないだろうか。見学だけでなく、秋から冬にかけての時期に来館者を増やす工夫の一つとして、この時期の体験イ



ベントの開催なども引き続き企画していきたいと考えている。その実践として、2018年度から「化石の日」に関連して10月半ばに定例イベントを実施することとした（2018年に日本古生物学会が、10月15日を化石の日と制定したことになむ）。

年度ごとの比較では、2018年度は2017年度に比べて公務員、会社員、家庭（家族連れの方々）が増加していることで全体として前年度を上回る結果となっている（第21図）。地域別ではつくば市内の来館者数が増加している（第22図）。つくば市以外の茨城県内からの来館者数は前年度とほぼ変わらず、2011年3月の東日本大震災以前の水準への回復にはまだ道のりが遠いようである。2018年度は、初めて来館された方の割合が微増しているが、2-5回、6-10回、11回以上のリピーターも少しずつ上昇している。

2011年の東日本大震災以降の入場者数の減少傾向が、2015年度から増加に転じ、2018年度も増加傾向を維持している。この後も増加傾向をはかっていくために、上述の①～⑫の個別対応策を総合し、引き続き、

- (1) つくば市以外の茨城県内の入館者数を増やすこと
- (2) 老朽化・故障した展示物の改修を進めるとともに、一度来た人がリピーターとなるように更新の容易な展示物も配置し、また時流に合わせた話題を特別展示などで提供するなど、魅力的な博物館展示となるようにすること
- (3) さらにその魅力を積極的に発信していくこと

の3点を目標とした活動を実施すべく努力しているところである。このため、地質標本館を運営する地質情報基盤センターだけでなく、研究部門や産総研全体にも協力を求めながら、GSJ全体として取り組みを進めている。

## 5. おわりに

本報告では2018年度のアンケートを分析した。現在地質標本館では、大規模な改修計画をもとに地質情報基盤センターとGSJ研究企画室国内連携グループとが連携しながら、改修が進められている。

今後も地質標本館で実施するアンケート内容は、社会ニーズの把握とGSJ全体のアウトリーチ活動に対する満足度を計る指針とすることを念頭に置き、引き続き地質情報基盤センター地質標本館室運営グループにより継続的かつ定期的に報告する。これら来館者からの直接的な意見は、GSJのアウトリーチ活動のPDCAサイクルを動かしていくための参考資料として活用しつつ、地質標本館の運営に反映していく予定である。なお、一般向けのアンケート結果報告は、森尻ほか（2017）、辻野ほか（2018）などを参照されたい。

## 追記

本報告は、地質情報基盤センター地質標本館室 兼子尚知（兼務）、利光誠一（兼



務)、朝川暢子、谷島清一、下川浩一、佐藤隆司、高橋 誠、高田 亮、林 和彦、常木俊宏、五十嵐幸子、上野香緒里、宮本晃之、森田澄人が集計・執筆した。また、アンケートの集計や分析においては、地質標本館説明員に登録されている森尻理恵氏の現場サイドからの意見も参考にさせていただいた。

## 文献

地質情報基盤センター（2016a）地質標本館の来場者アンケート分析（2007年～2015年度夏展まで）. GSJ技術資料集 No.5, AIST15-G00002-5  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_05\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_05_2016.pdf)

地質情報基盤センター（2016b）地質標本館の来場者アンケート分析（2015年度後半：秋～冬の特別展）. GSJ技術資料集 No.6, AIST15-G00002-6  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_06\\_2016.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_06_2016.pdf)

地質情報基盤センター（2017）地質標本館の来場者アンケート分析（2016年度）. GSJ技術資料集 No.8, AIST15-G00002-8  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_08\\_2017.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_08_2017.pdf)

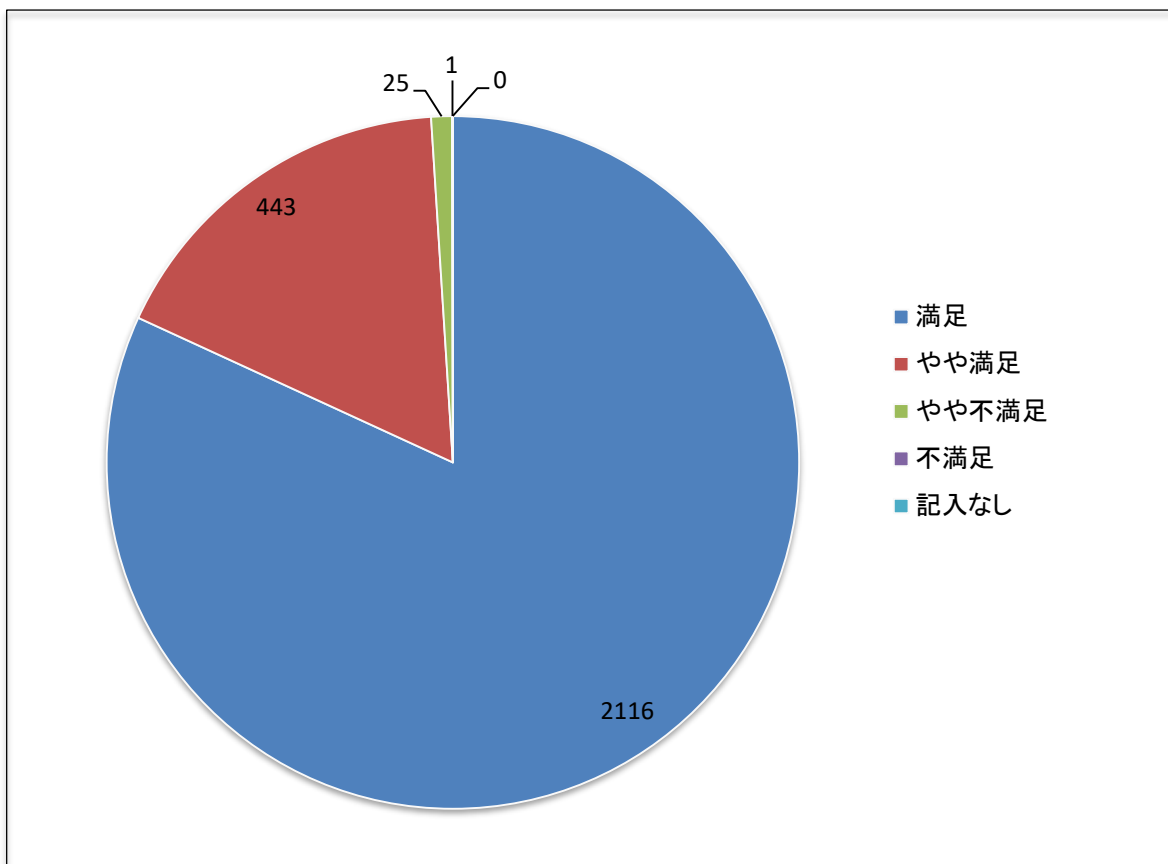
地質情報基盤センター（2018）地質標本館の来場者アンケート分析（2017年度）. GSJ技術資料集 No.10, AIST15-G00002-10  
[https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ\\_ComRep\\_10\\_2018.pdf](https://www.gsj.jp/data/comprep/GSJ_ComRep_10_2018.pdf)

森尻理恵・吉田清香・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤 茂・利光誠一（2015）地質標本館来館者アンケート結果概報（2007-2014）. GSJ地質ニュース, 4, 346-352

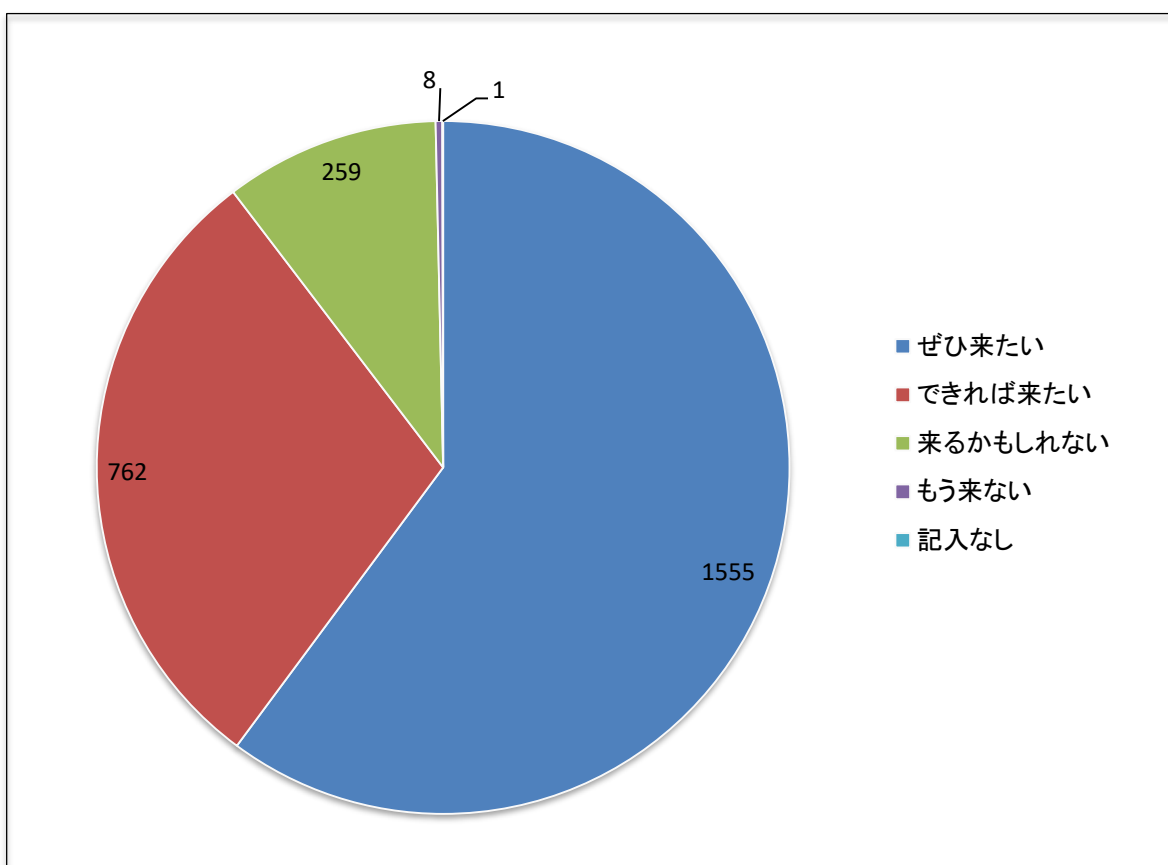
森尻理恵・朝川暢子・下川浩一・奥山康子・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・須藤茂・利光誠一・菅家亜希子・吉田清香・中山 淳・常木俊宏・小賀野功（2016）地質標本館来館者アンケート結果概報（2015年度）. GSJ地質ニュース, 5, 377-381

森尻理恵・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・菅家亜希子・中山 淳・常木俊宏・小賀野功・川鈴木宏（2017）地質標本館来館者アンケート結果概報（2016年度）. GSJ地質ニュース, 6, 268-276.

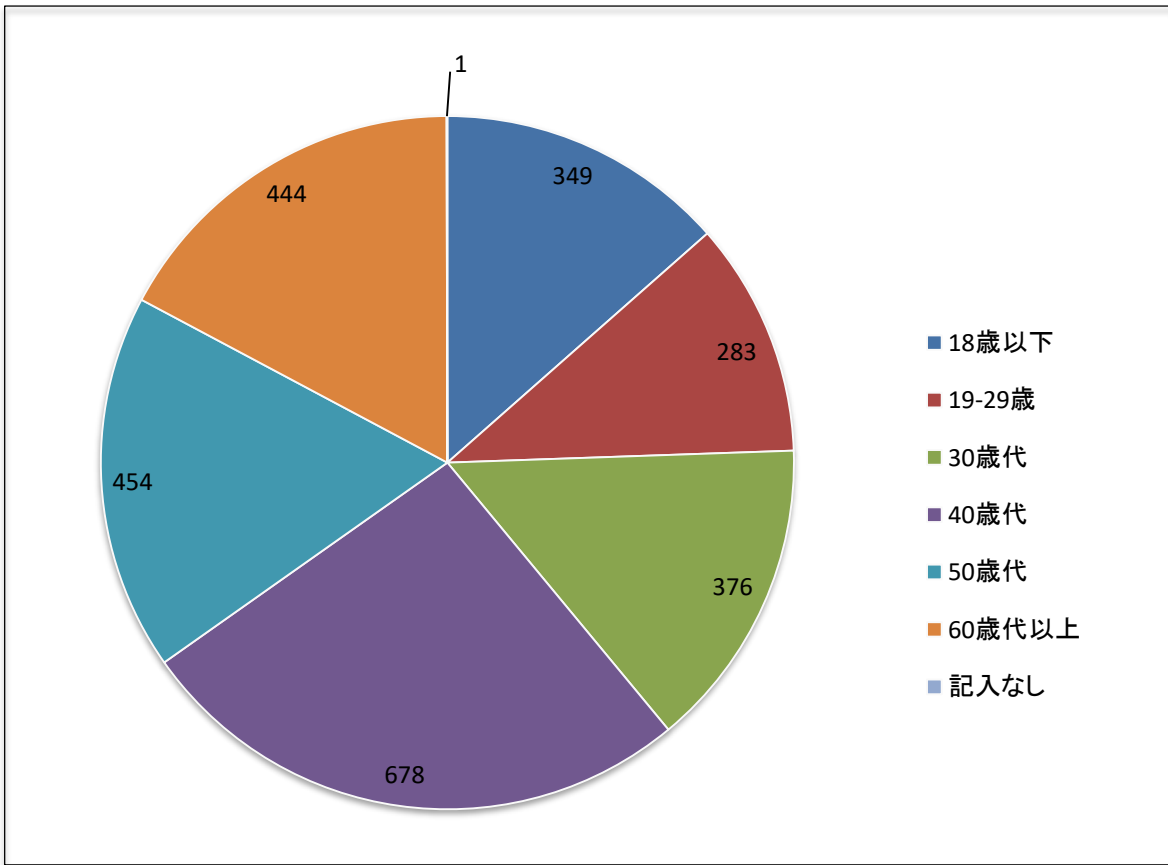
辻野 匠・谷島清一・朝川暢子・下川浩一・佐藤隆司・高橋 誠・酒井 彰・利光誠一・中山 淳・常木俊宏・五十嵐幸子・川鈴木宏・利光誠一・藤原 治（2018）地質標本館来館者アンケート結果概報（2017年度）. GSJ地質ニュース, 7, 239-248.



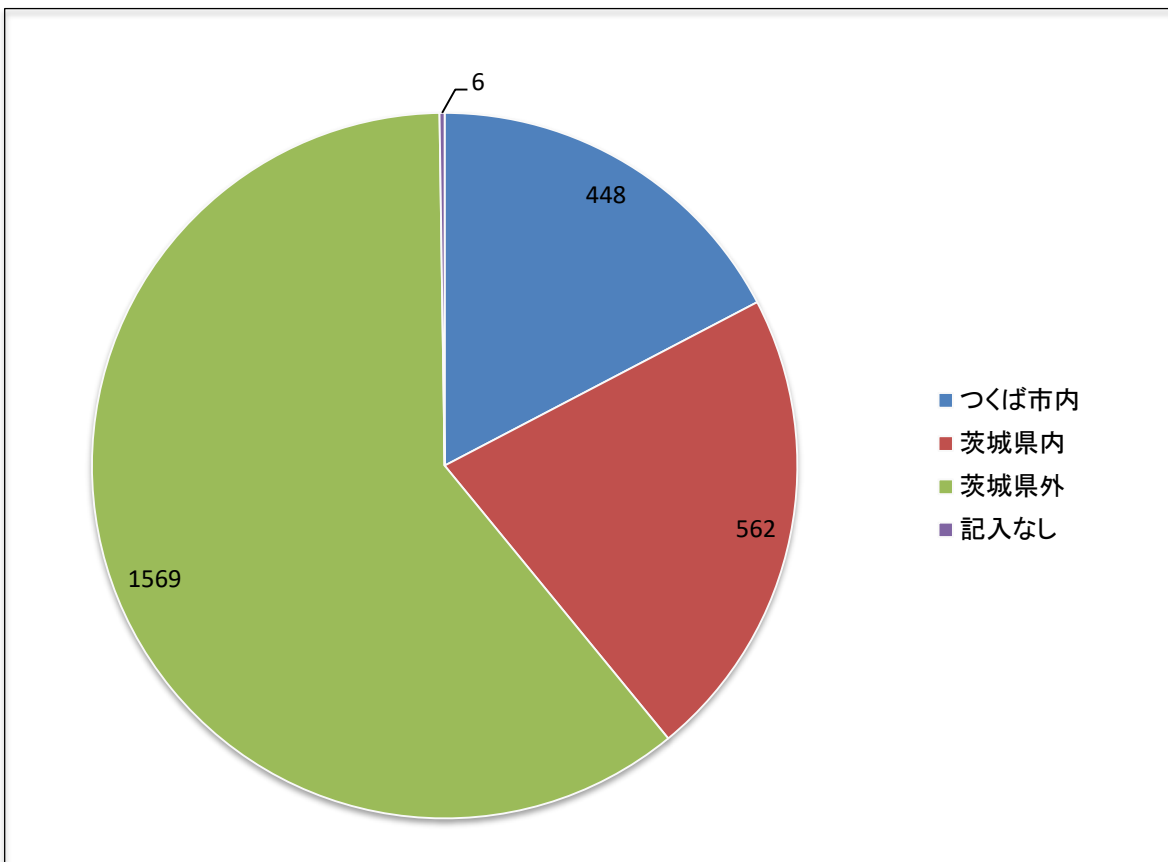
第1図 満足度(館全般)(N=2,585)



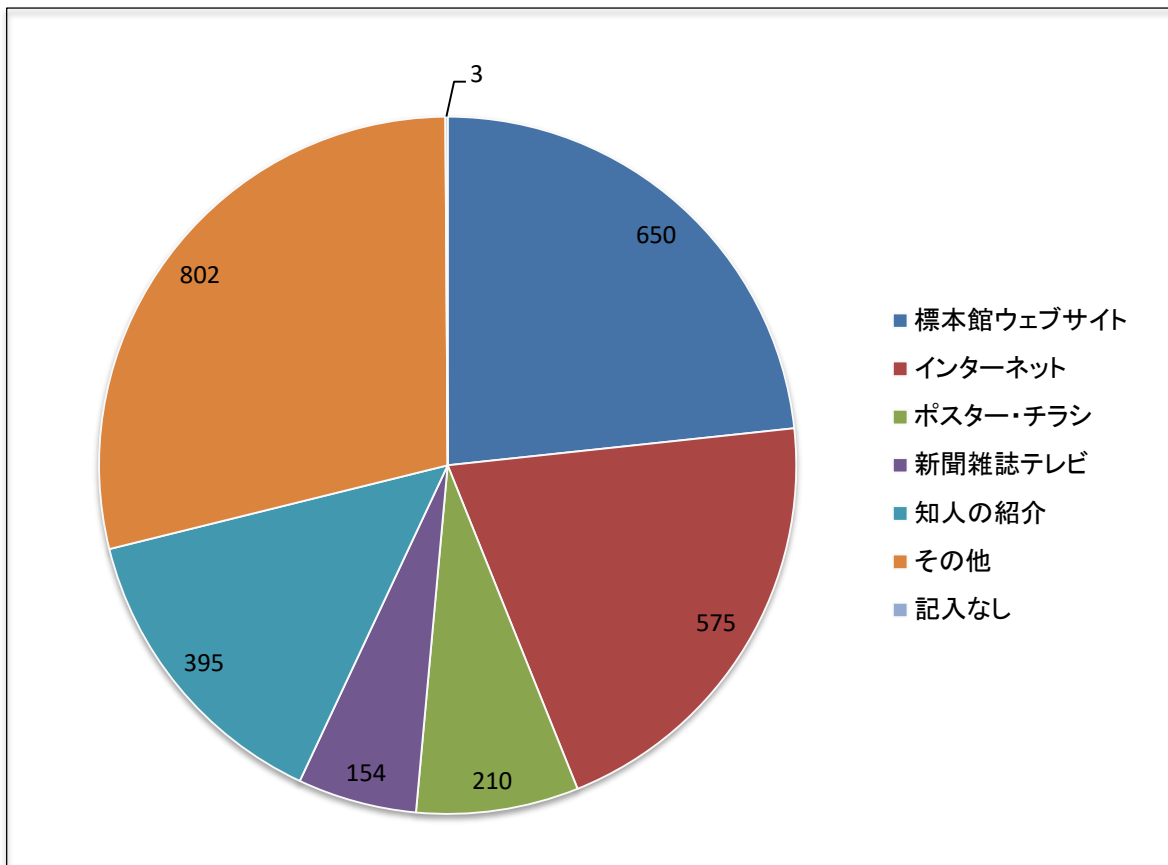
第2図 満足度(次回への期待度)(N=2,585)



第3図 回答者の年齢層(N=2,585)

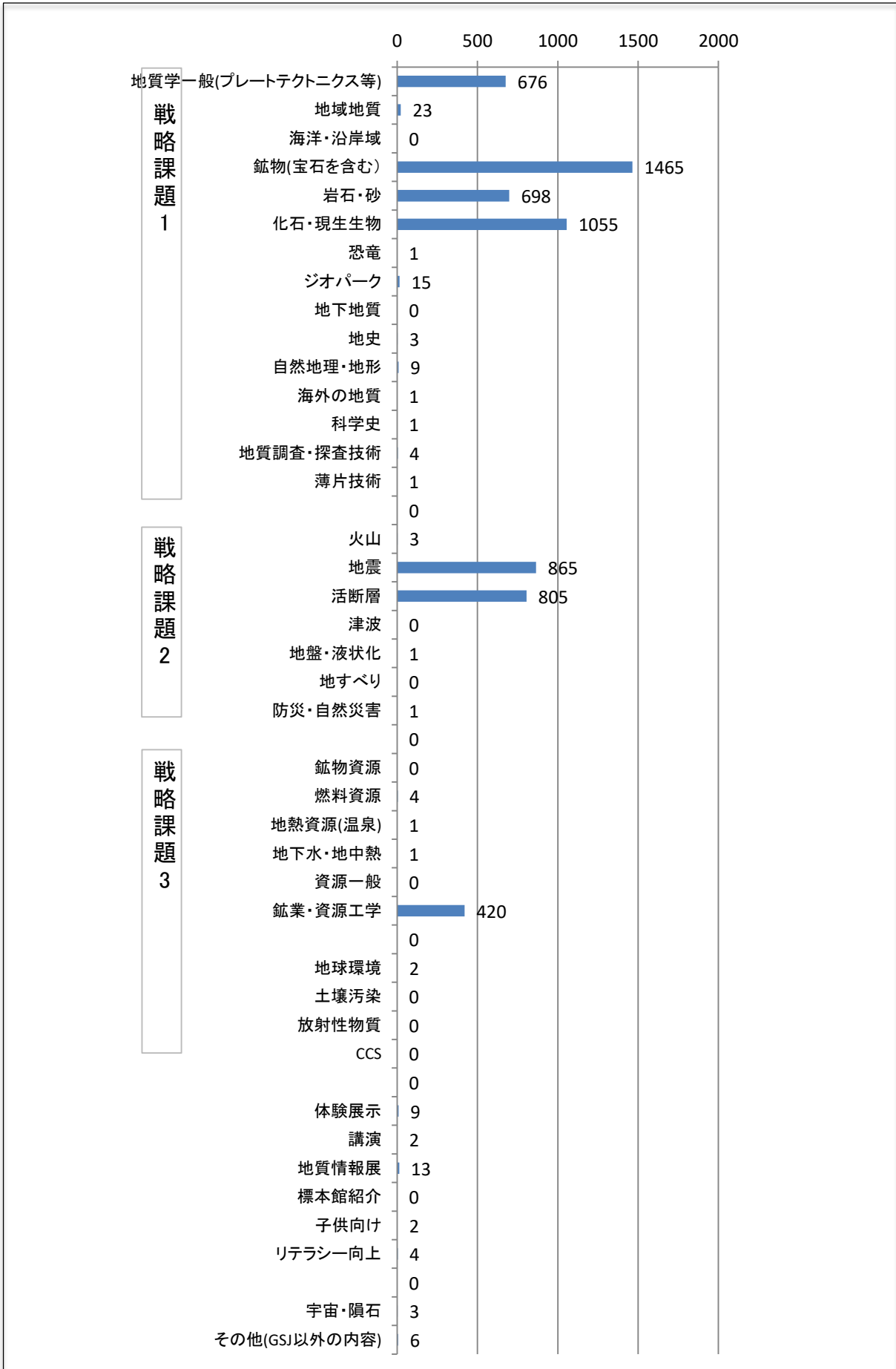


第4図 居住地(N=2,585)

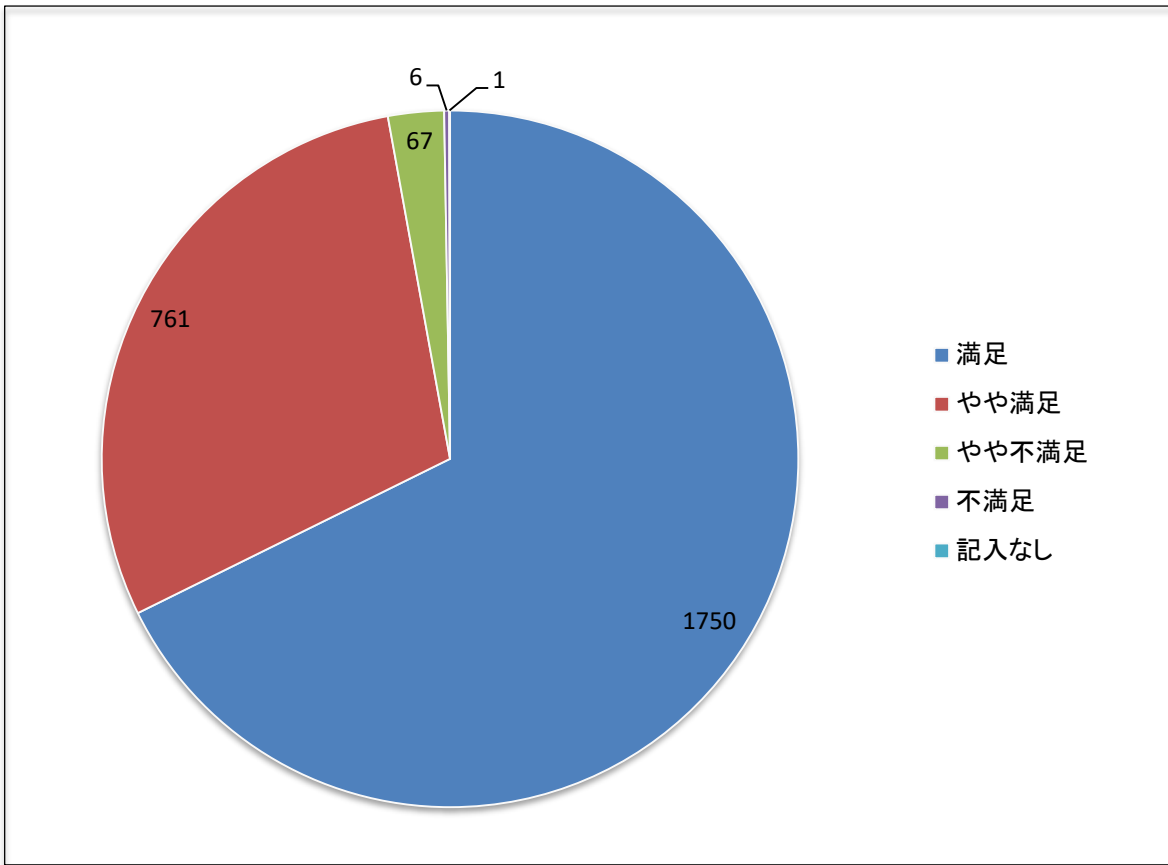


第5図 来館のきっかけ(N=2,789)

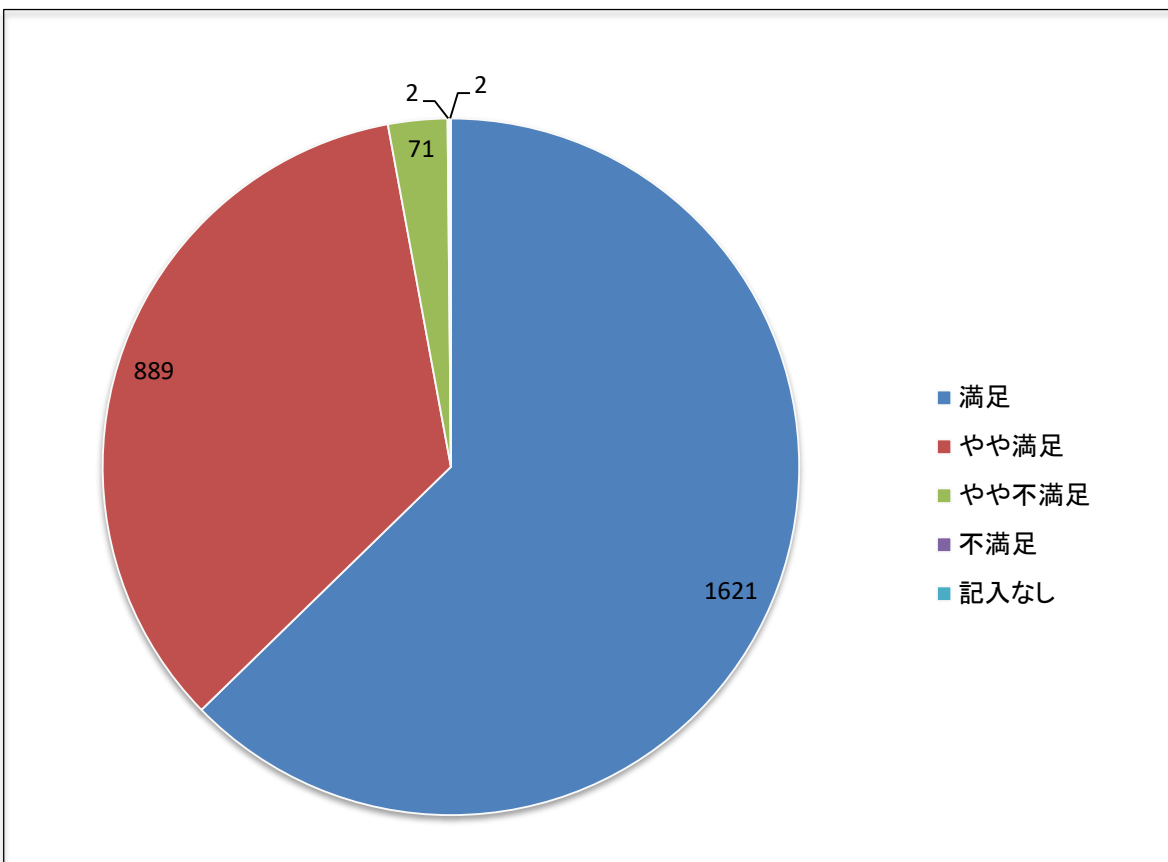




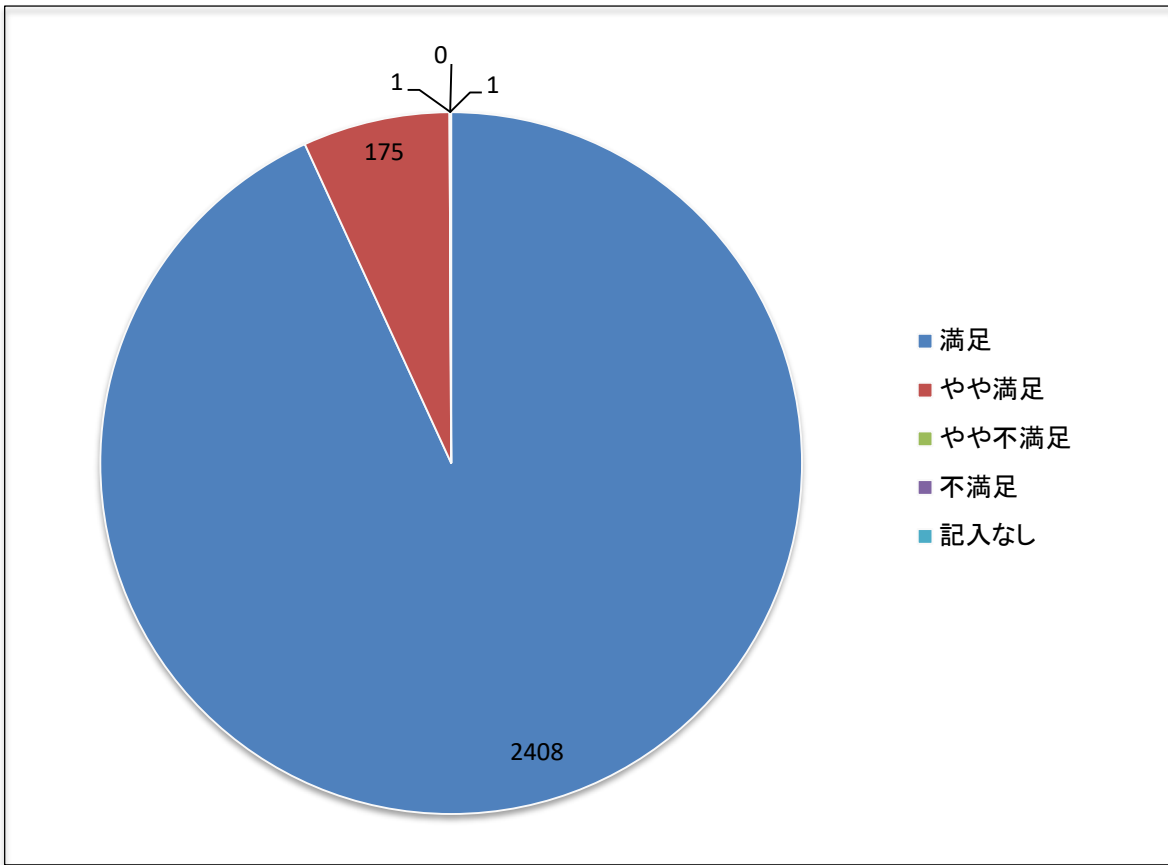
第6図 興味を持った展示テーマ（複数回答可）（n=6,094）



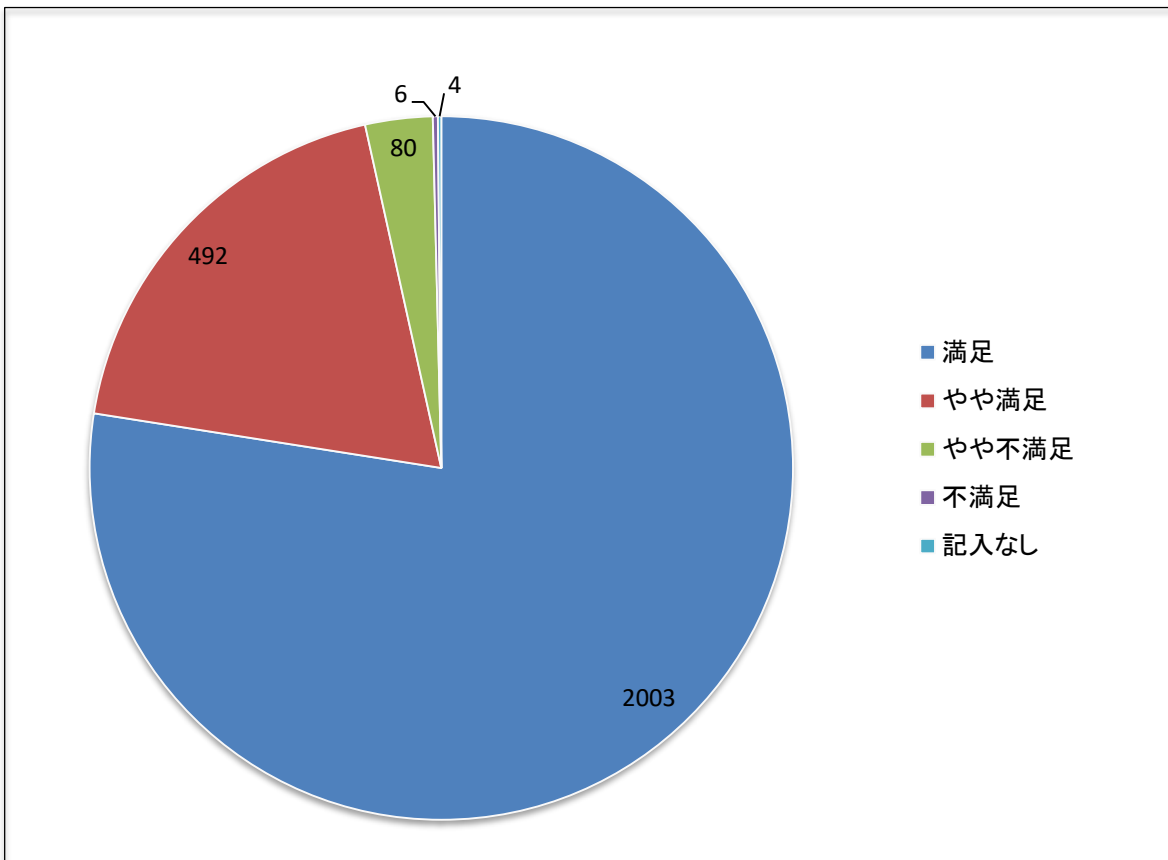
第7図 展示物について(展示の仕方)(N=2,585)



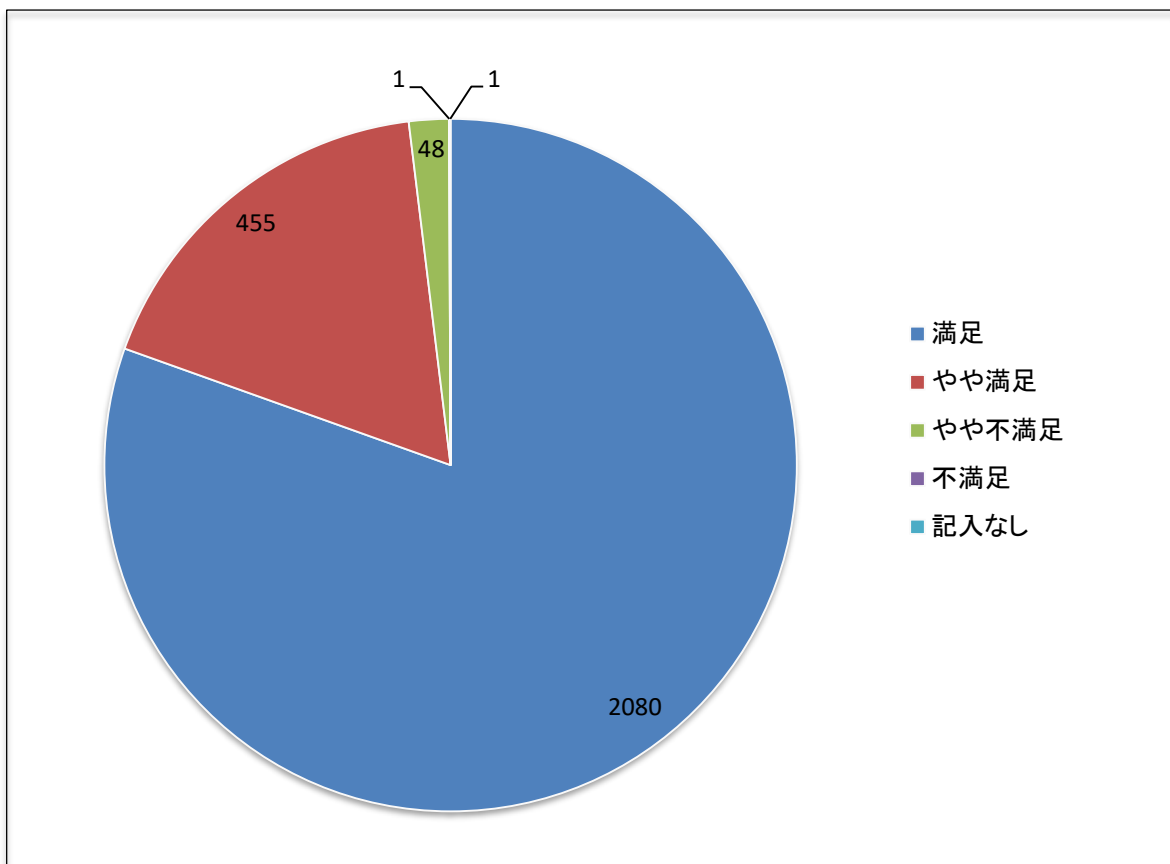
第8図 展示物について(機器の使い勝手)(N=2,585)



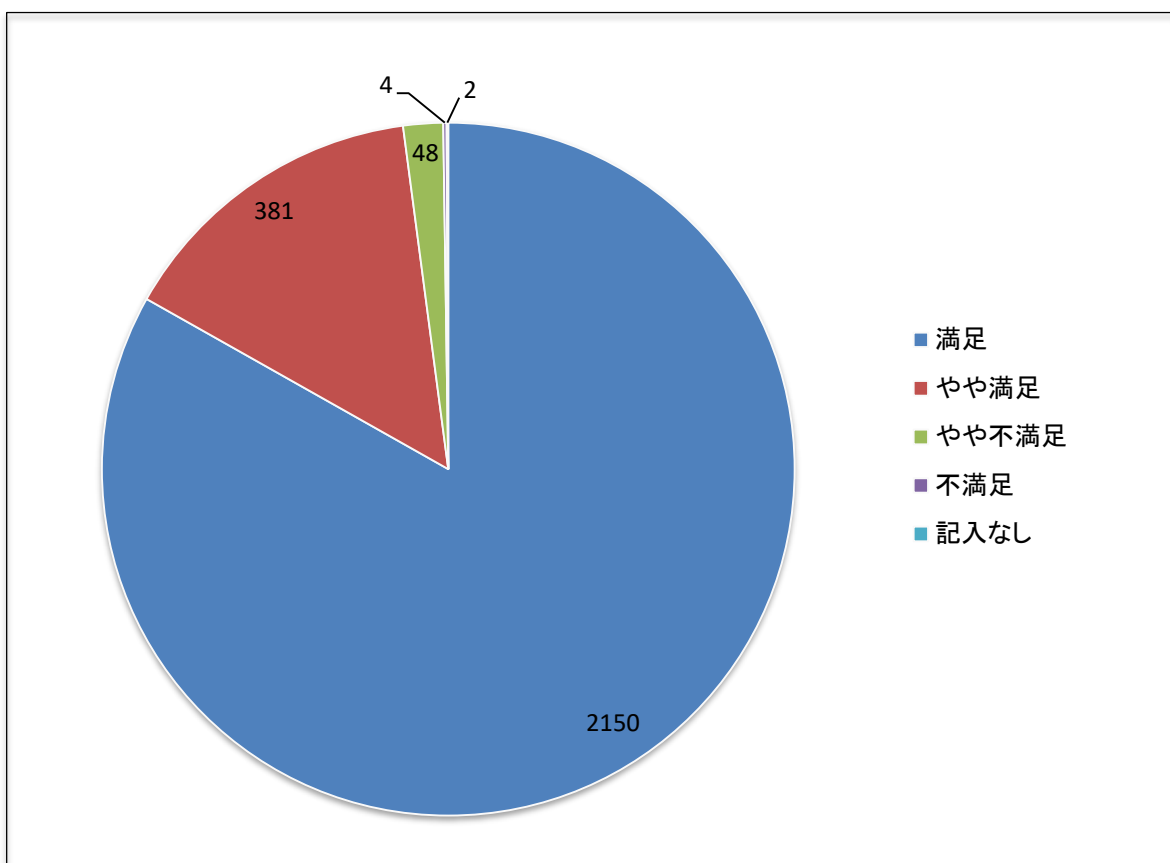
第9図 建物やサービスについて(受付の対応) (N=2,585)



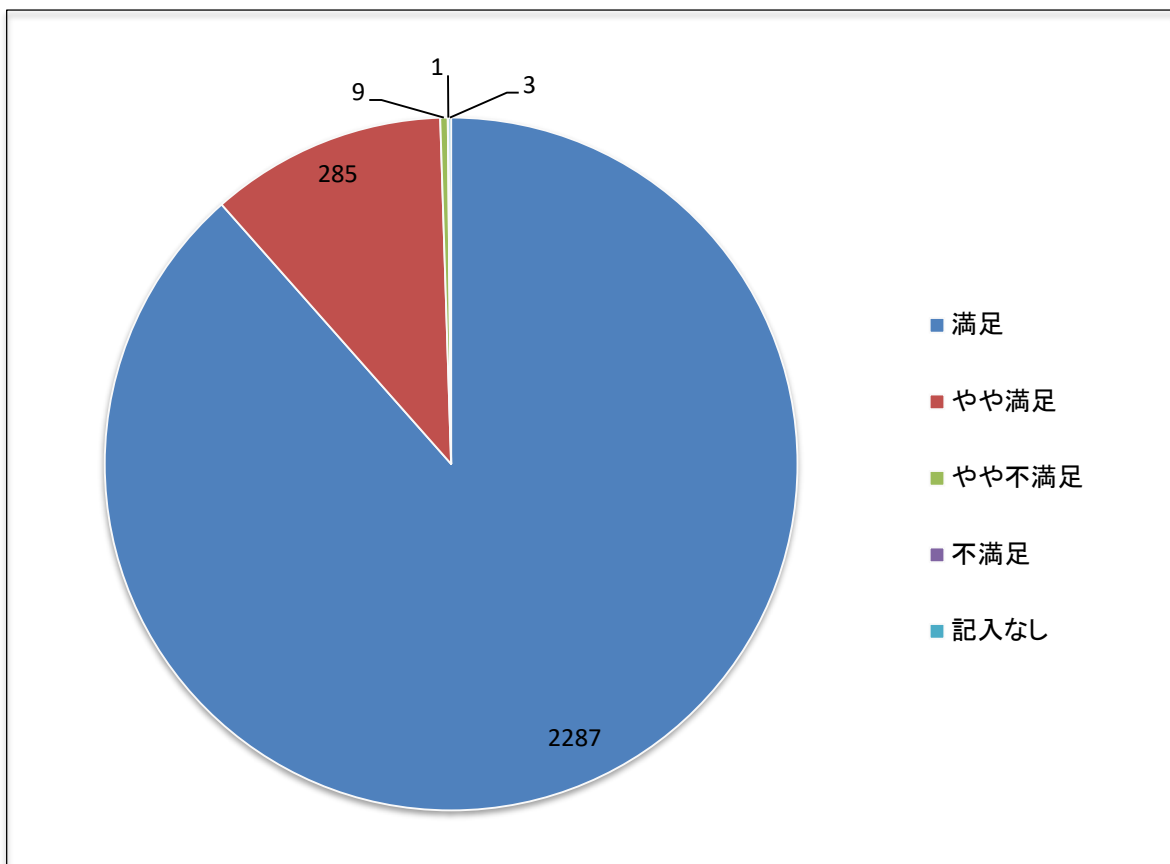
第10図 建物やサービスについて(案内表示) (N=2,585)



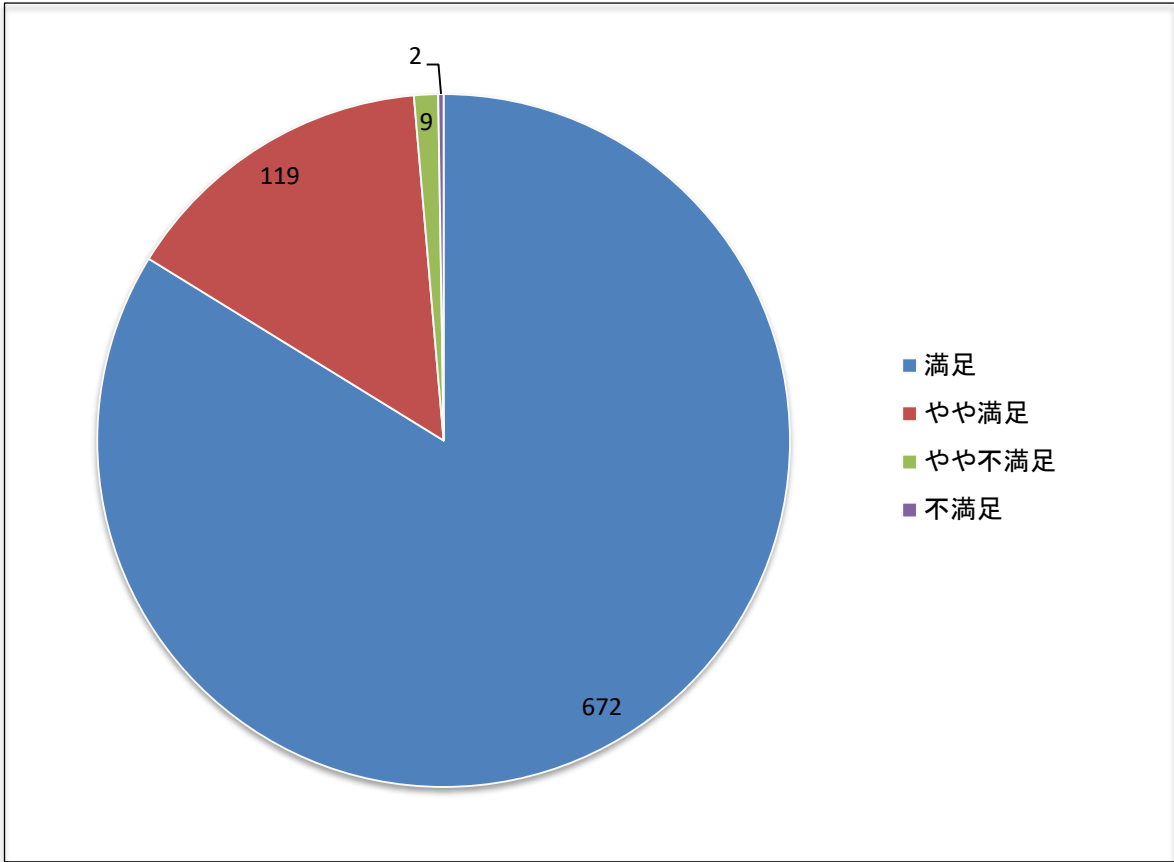
第11図 建物やサービスについて(館内の明るさ)(N=2,585)



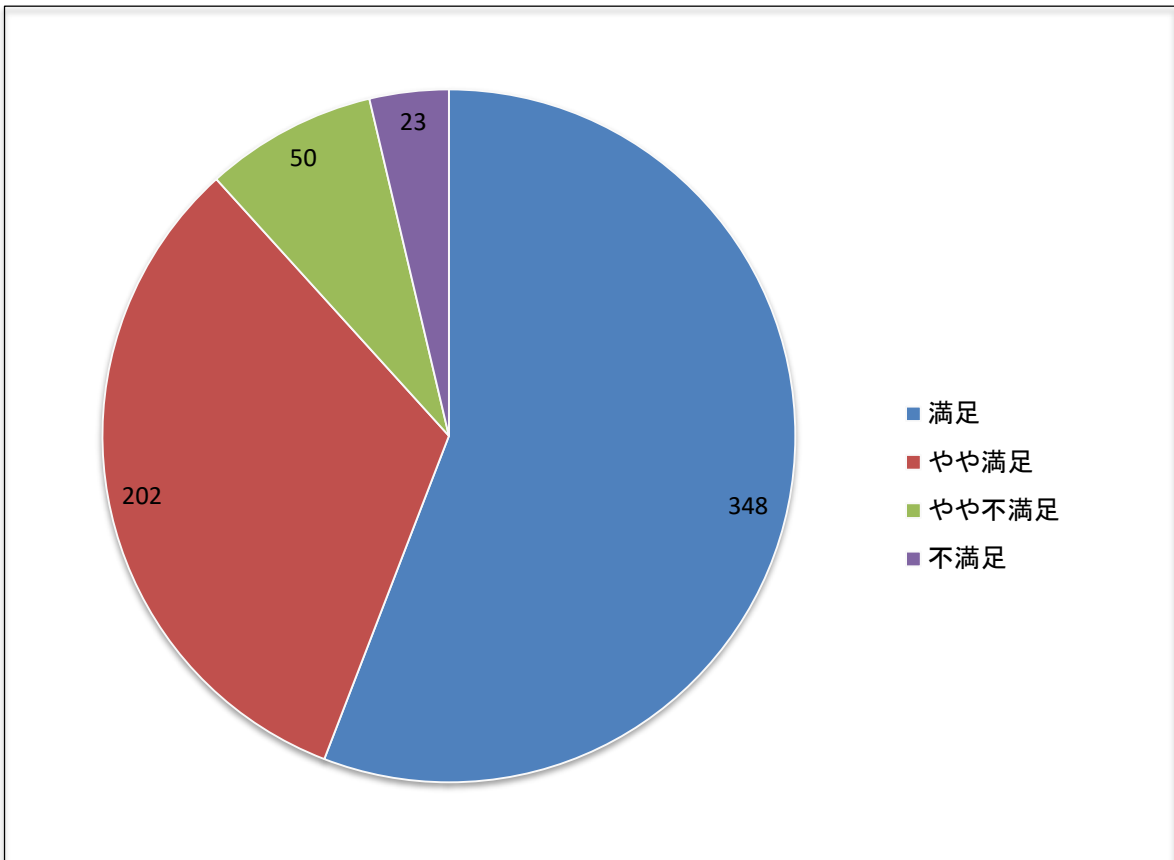
第12図 建物やサービスについて(空調温度)(N=2,585)



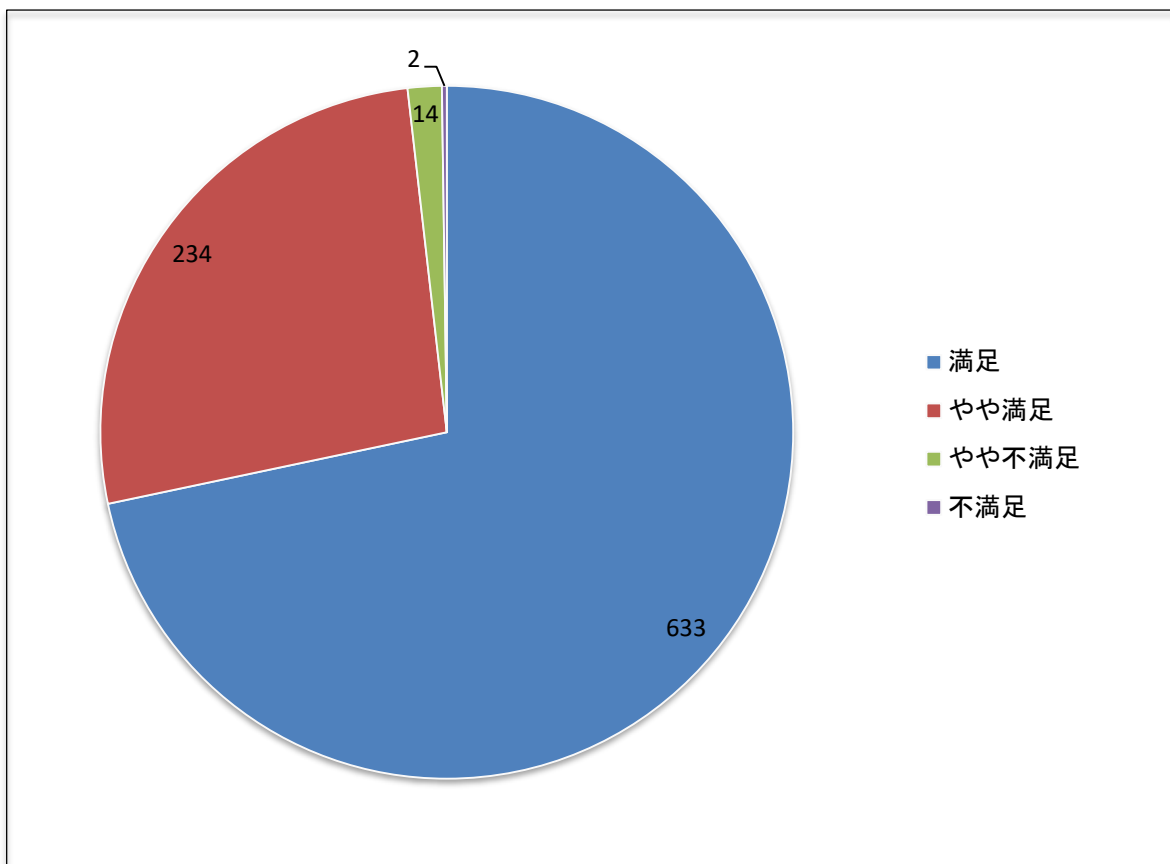
第13図 建物やサービスについて(清掃)(N=2,585)



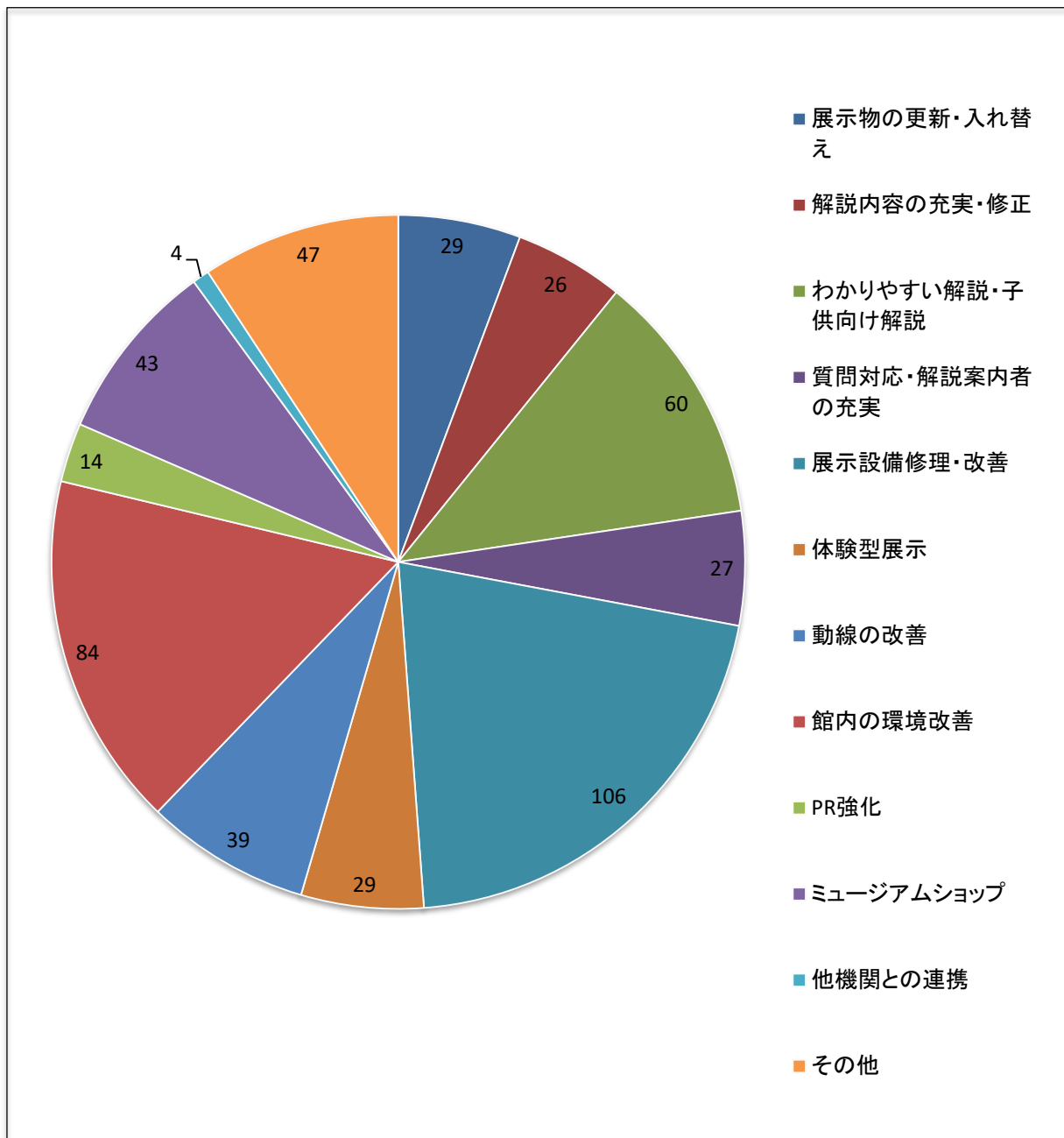
第14図 解説サービスについて(解説案内)(N=802)



第15図 解説サービスについて(QRコード解説)(N=623)

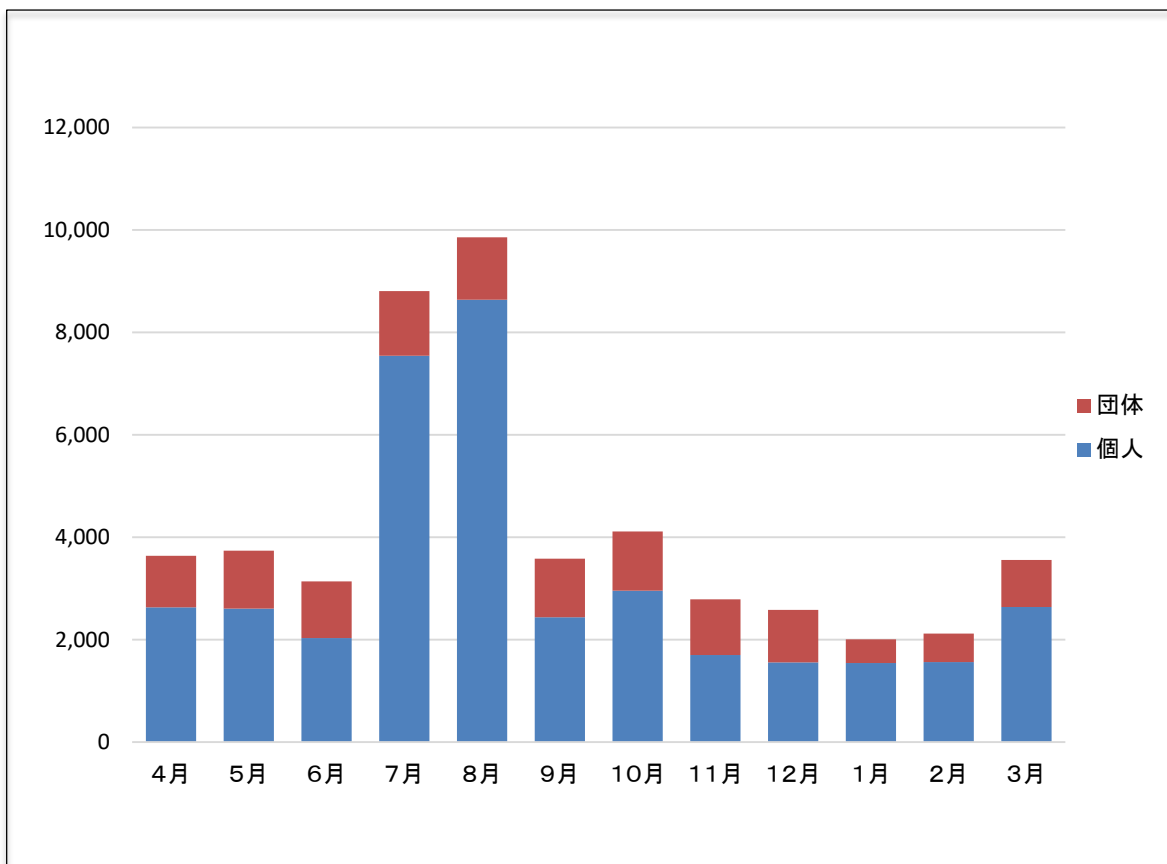


第16図 解説サービスについて(標本館クイズ)(N= 883)

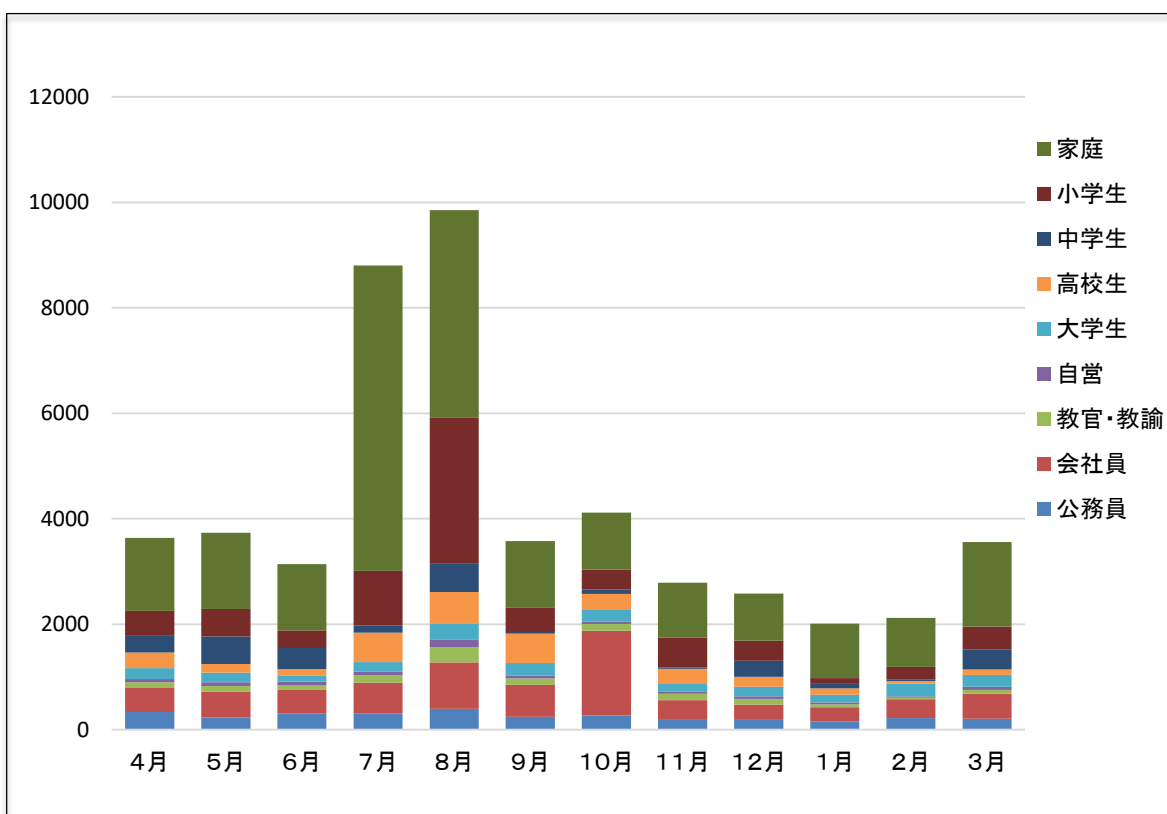


第17図 今後の展示内容の改善要望 (n=508)

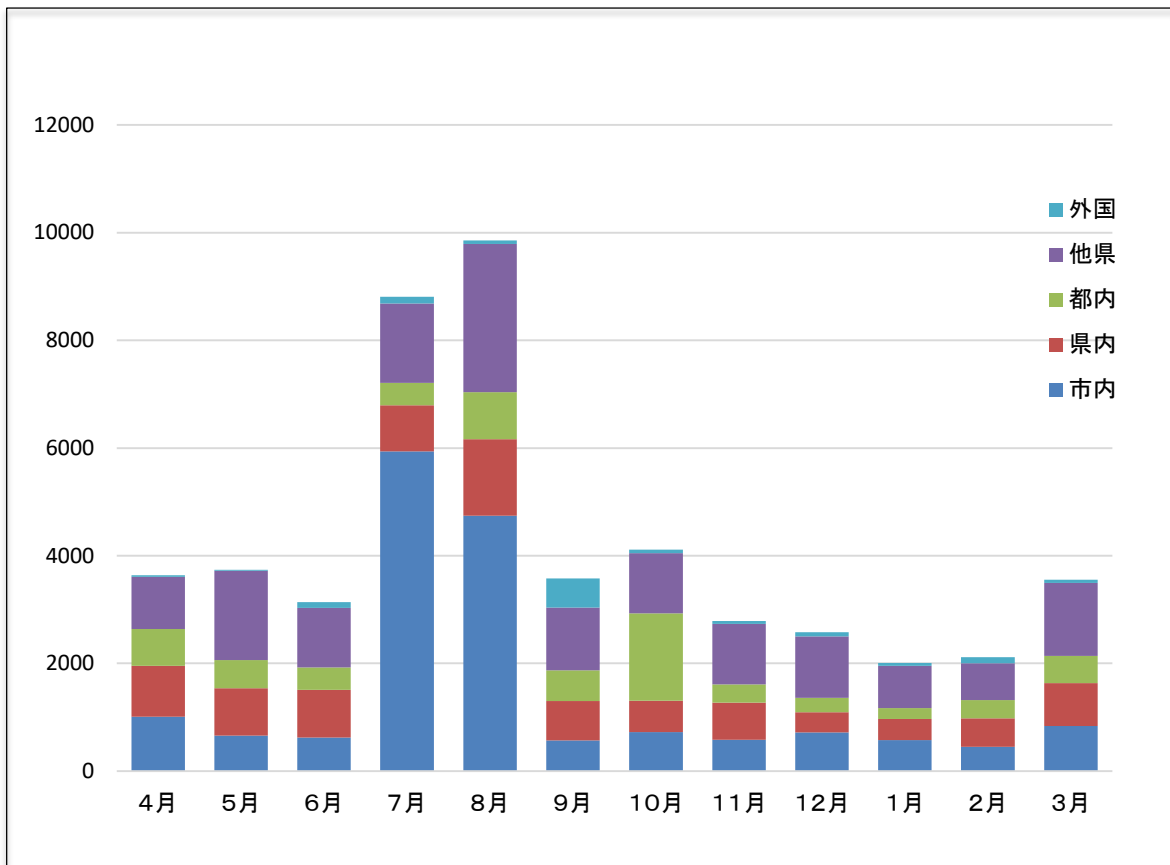




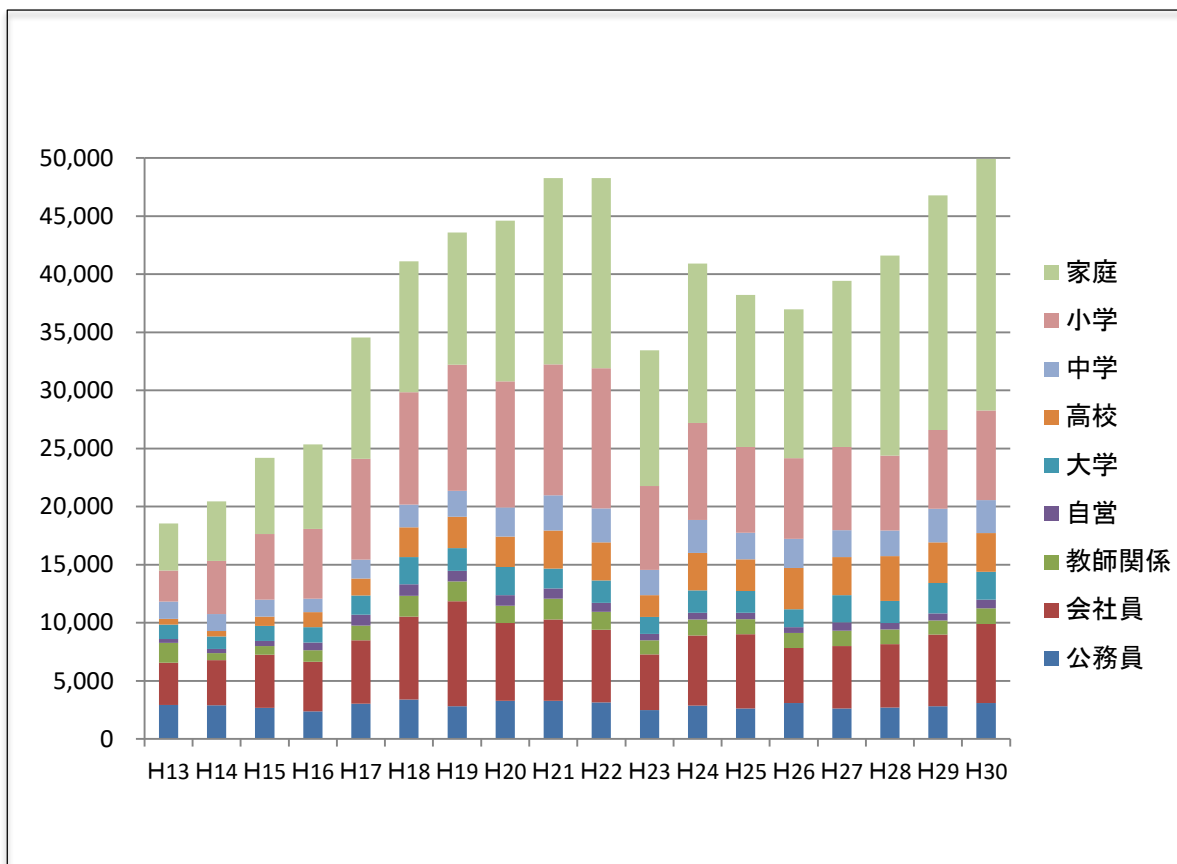
第18図 2018年度の月ごとの来館者数(N=49,919)



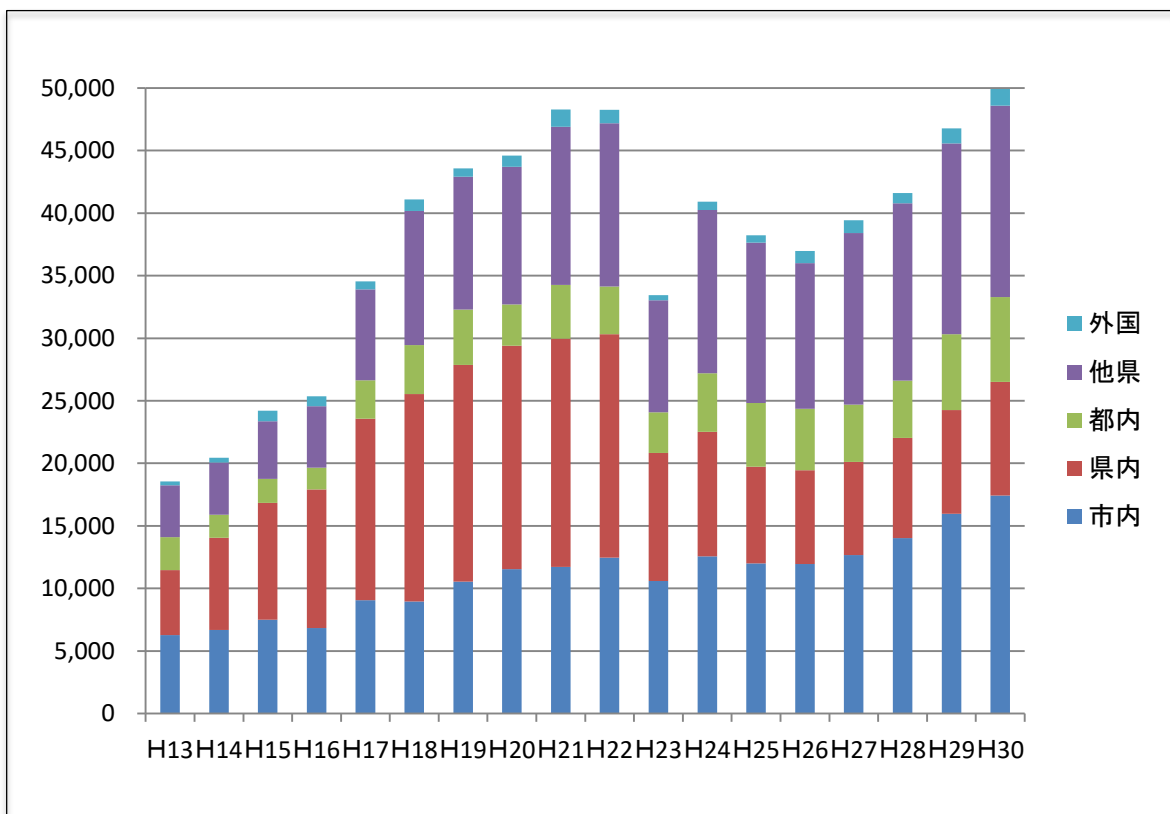
第19図 2018年度の月ごとの来館者職域内訳(N=49,919)



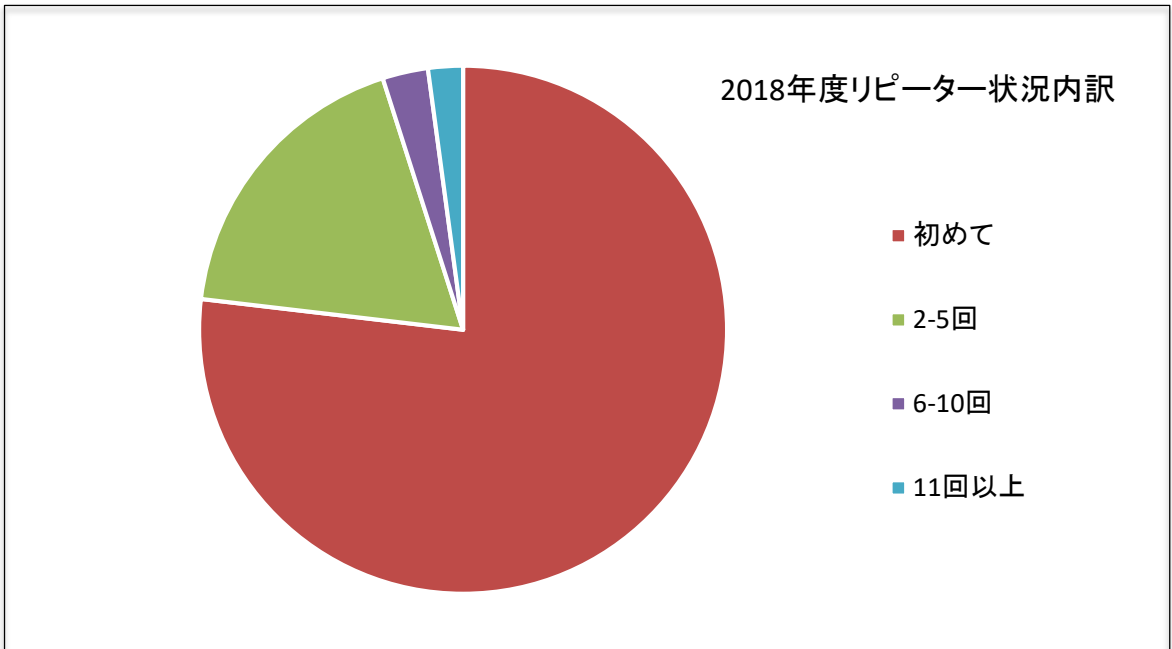
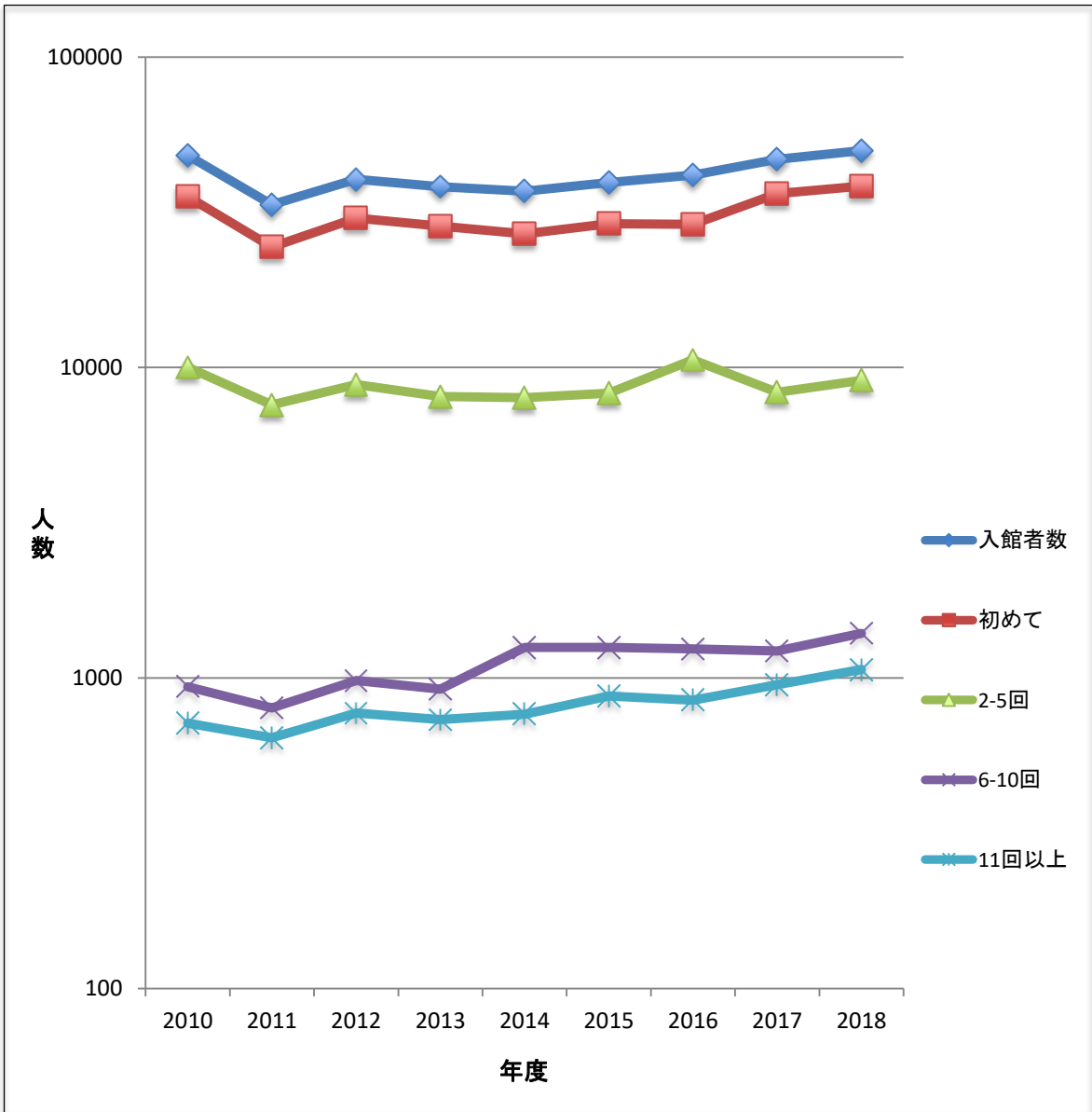
第20図 2018年度の月ごとの来館者地域別内訳(N=49,919)



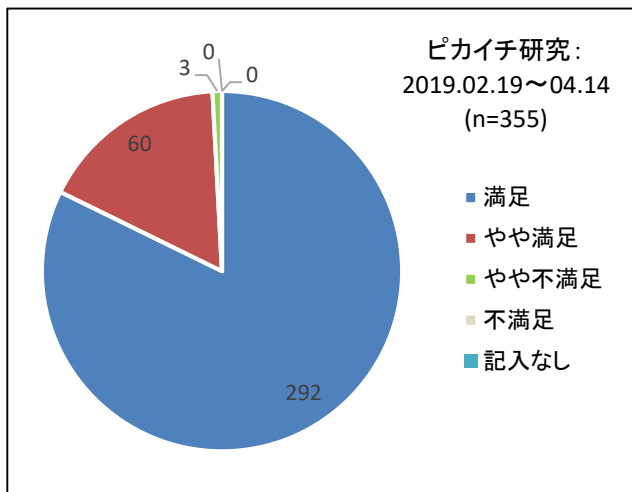
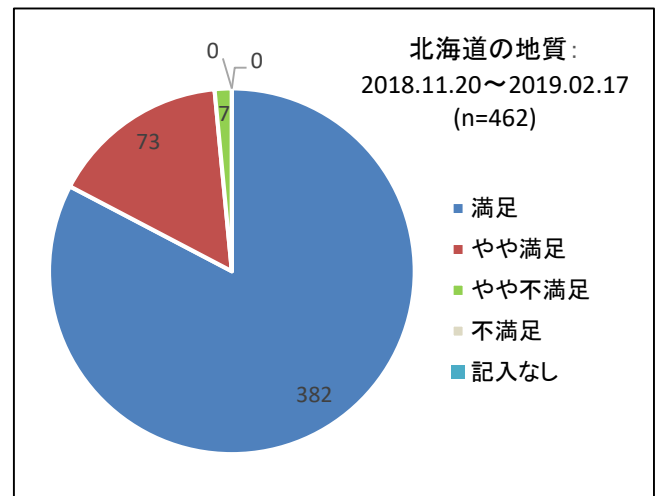
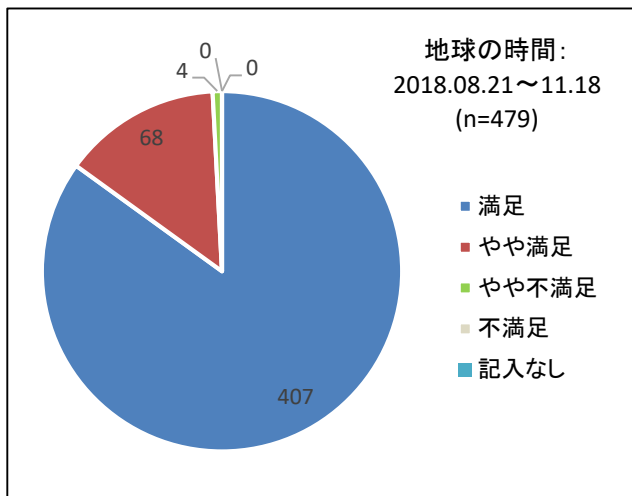
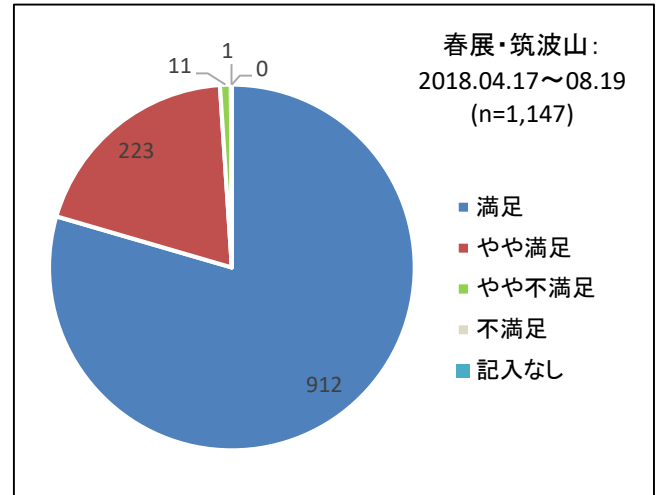
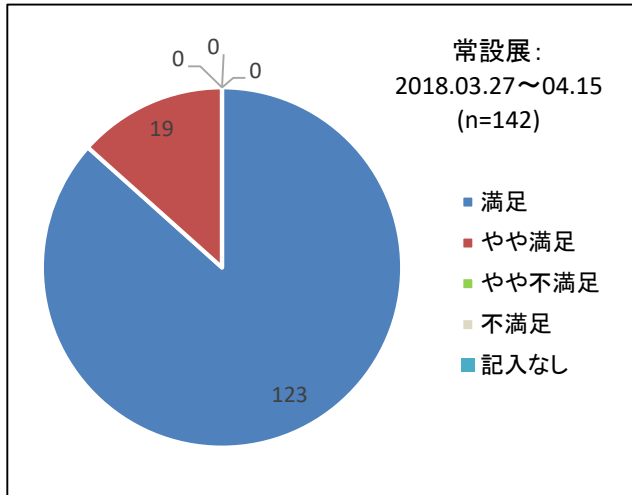
第21図 来館者数総計推移(職業別)



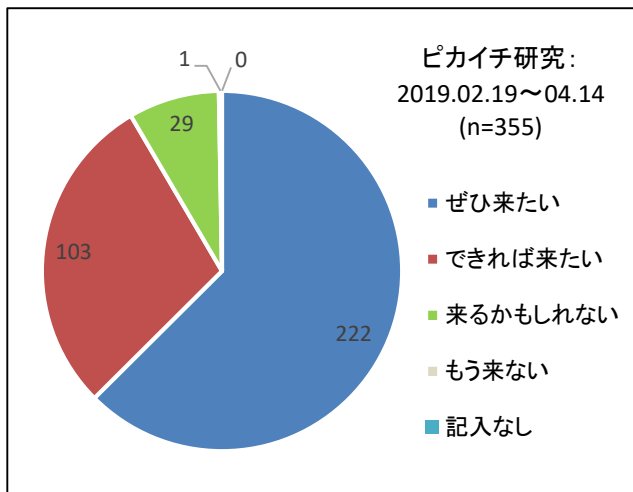
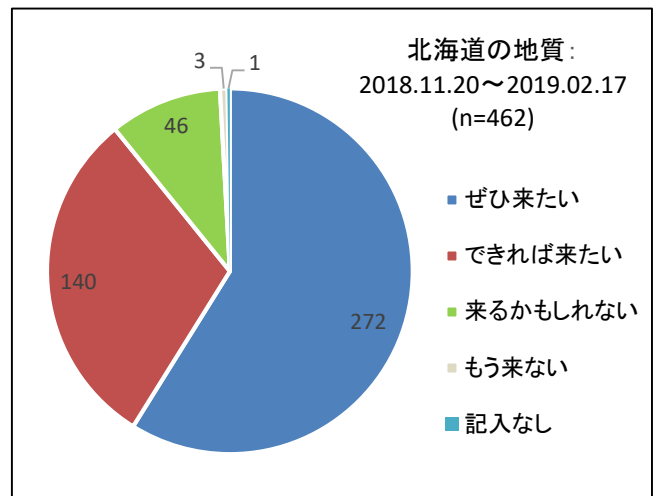
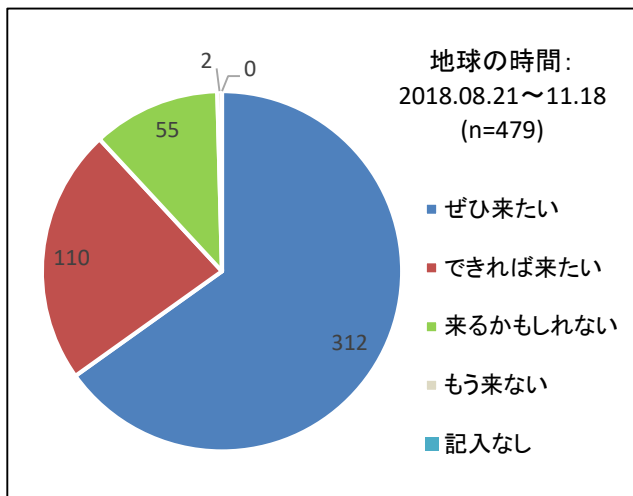
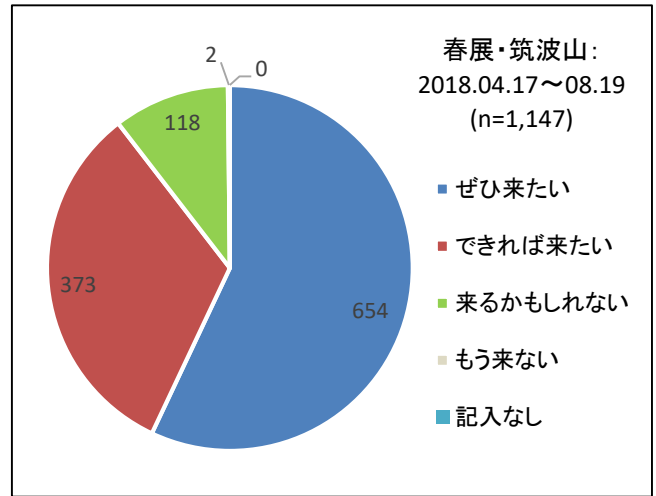
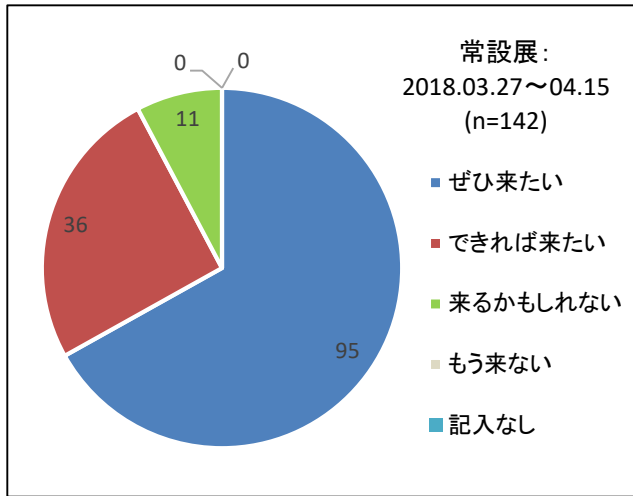
第22図 来館者数総計推移(地域別)



第23図 来館者数とリピーター状況

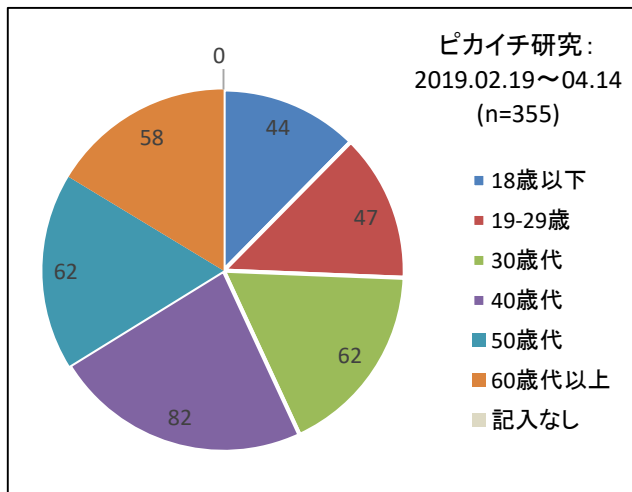
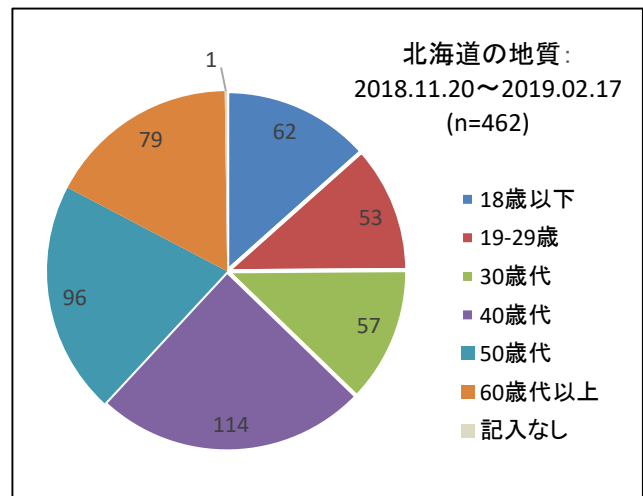
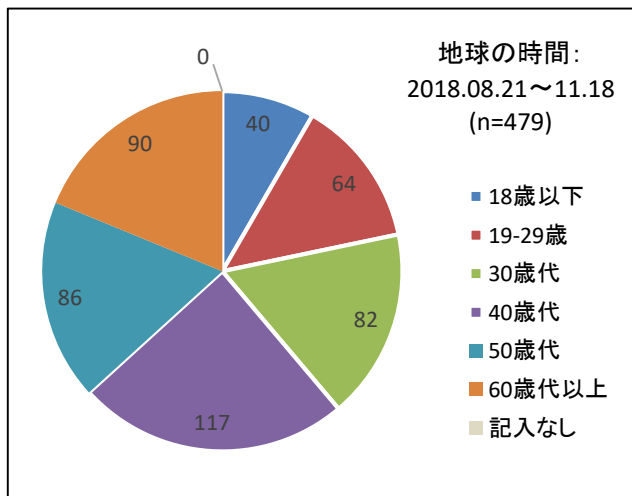
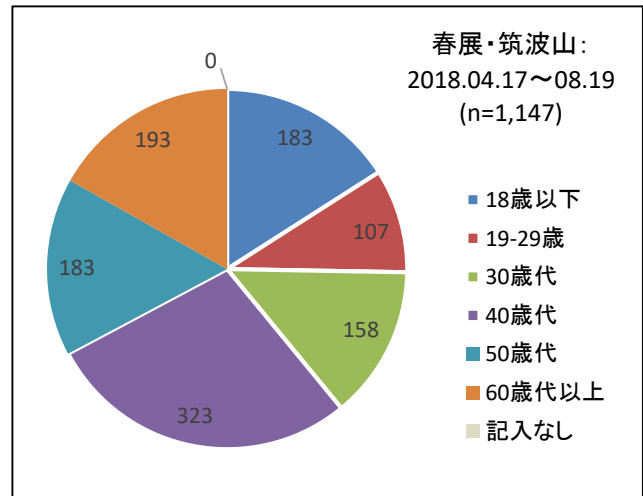
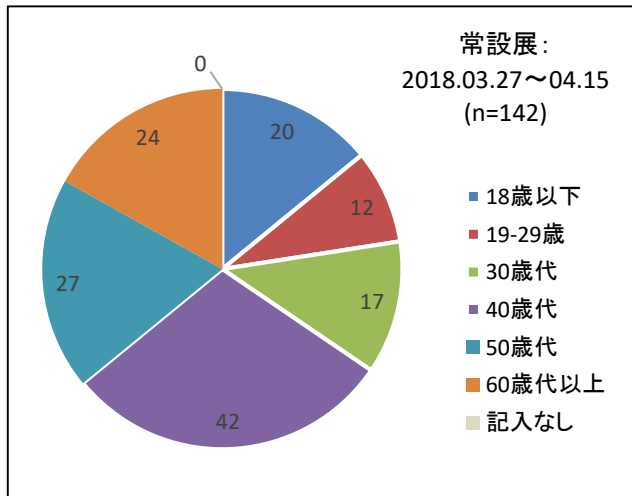


第24図 満足度(館全般)(期間ごと)

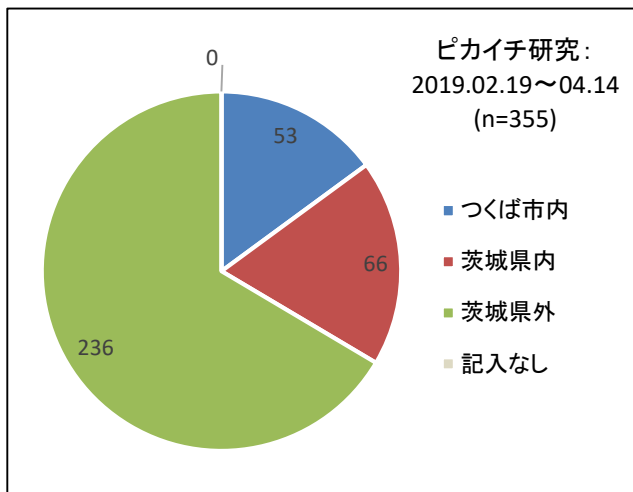
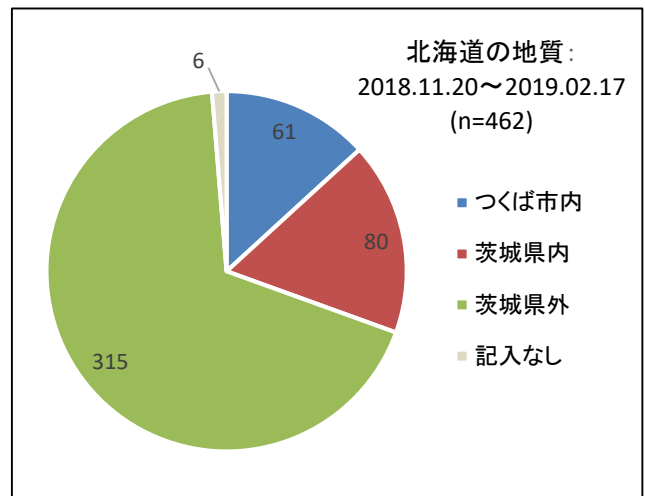
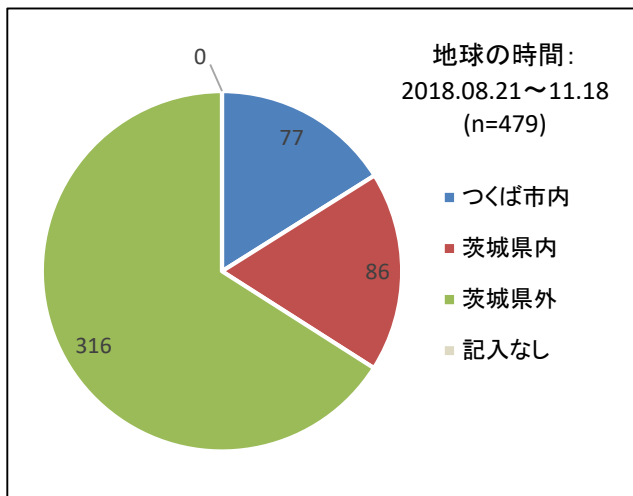
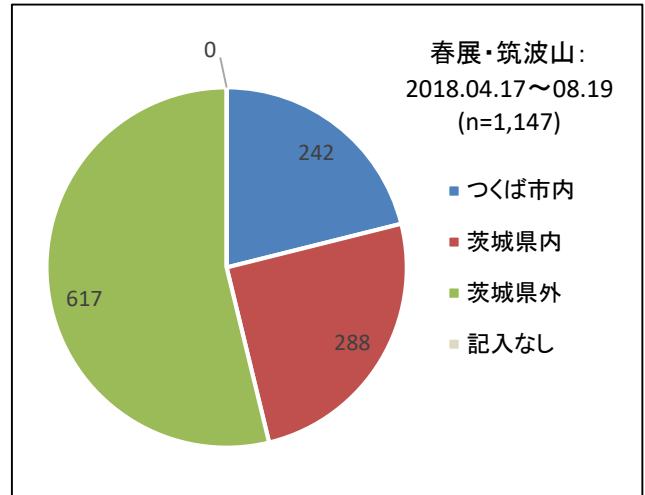
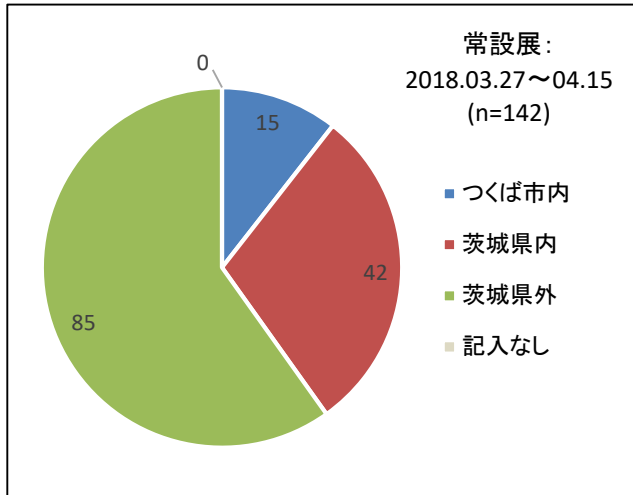


第25図 満足度(次回への期待)(期間ごと)

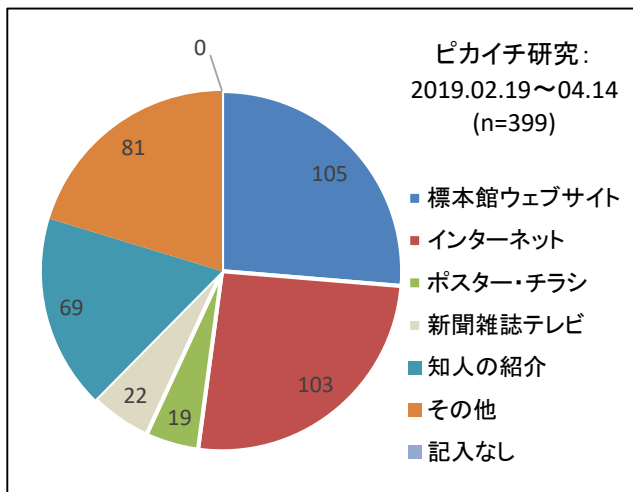
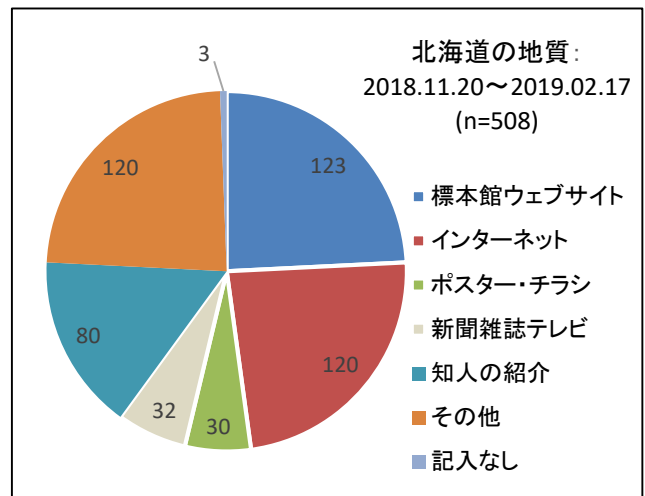
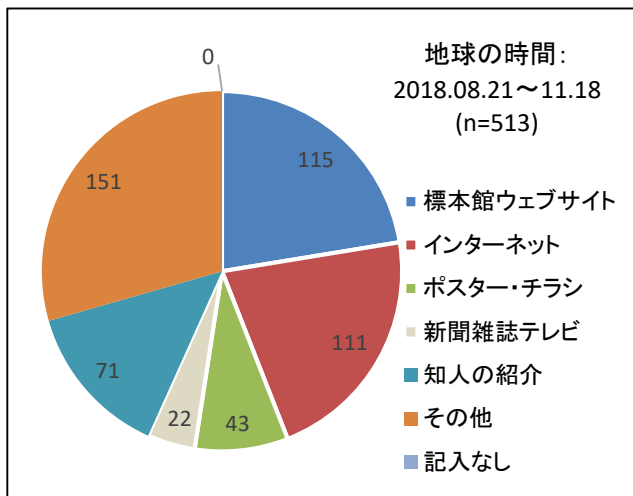
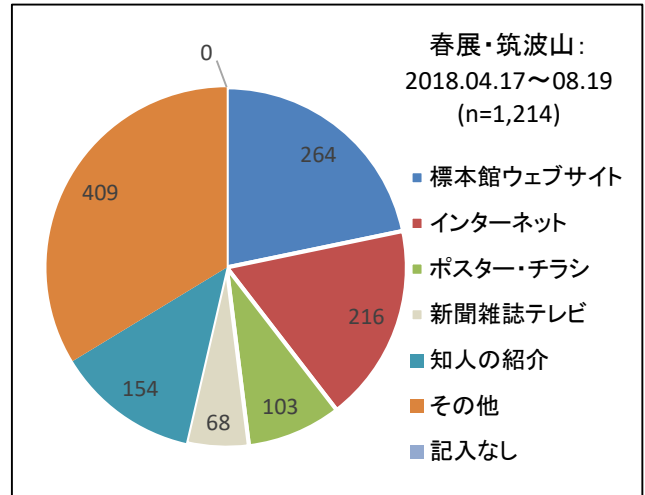
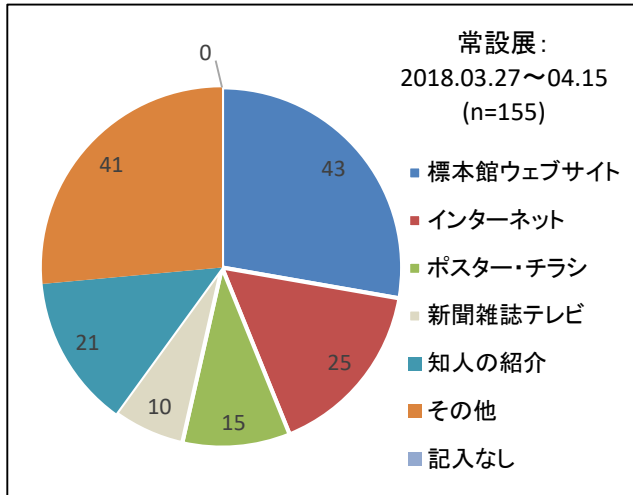




第26図 回答者の年齢層(期間ごと)

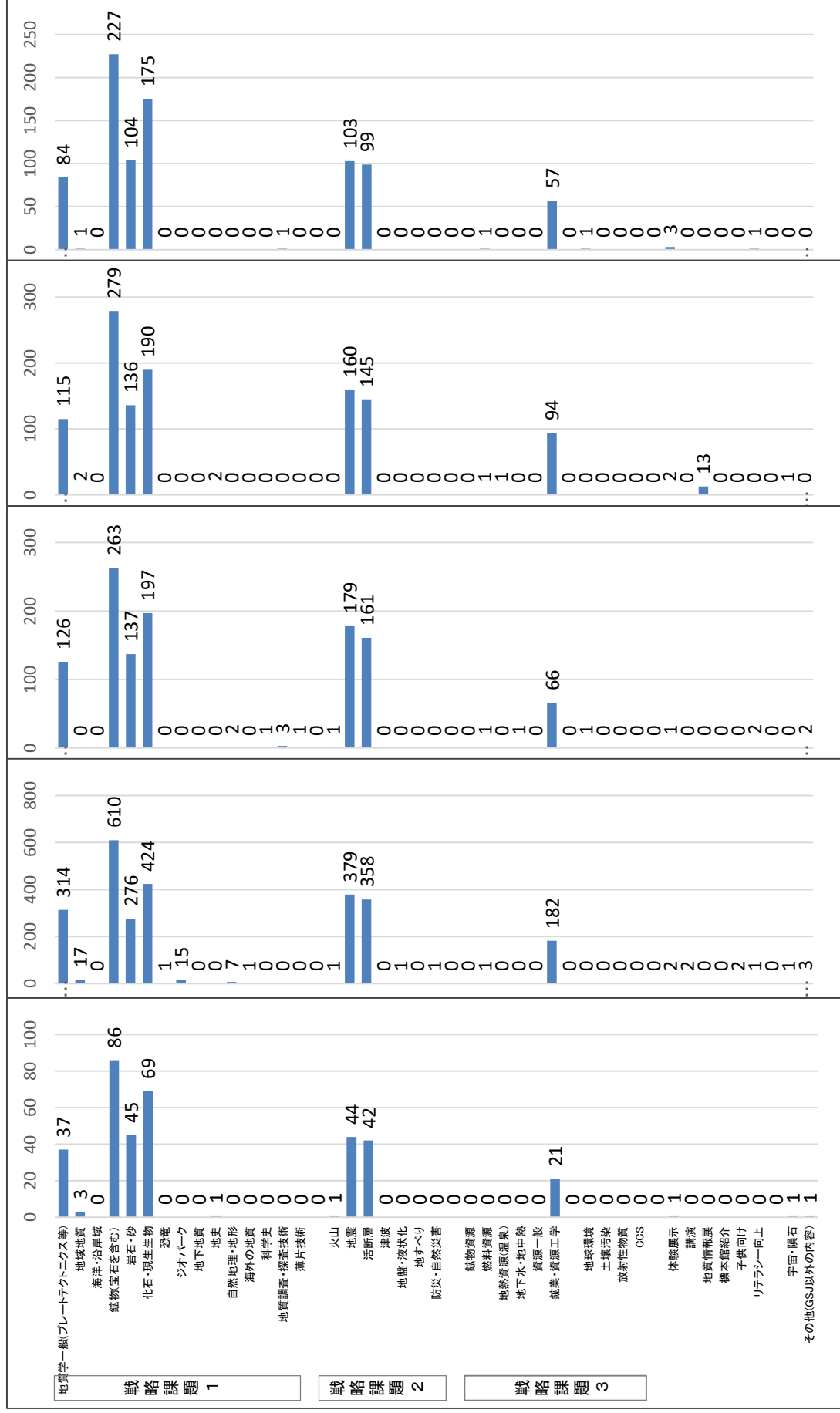


第27図 居住地(期間ごと)

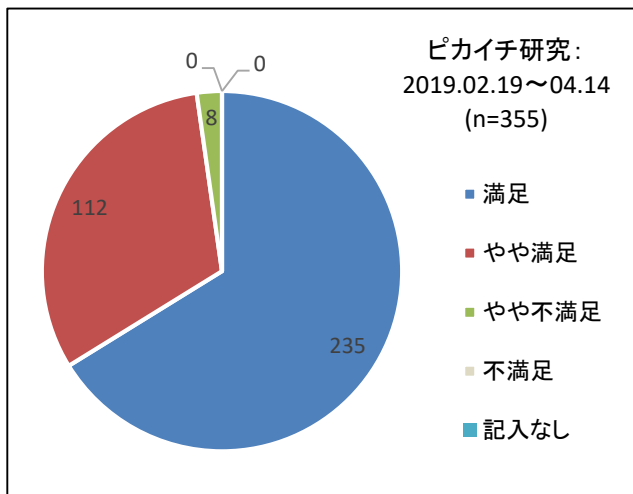
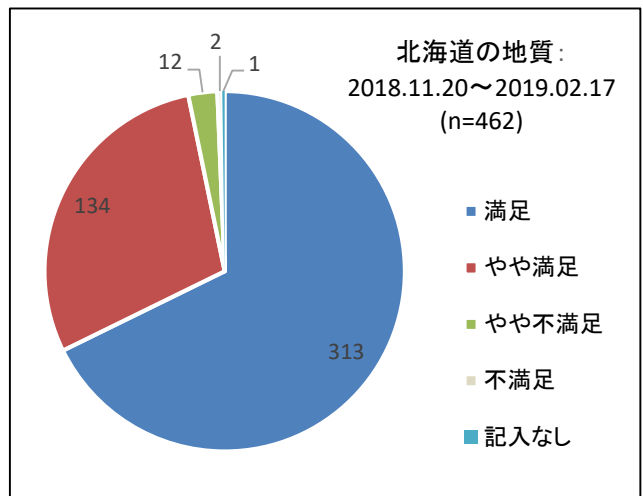
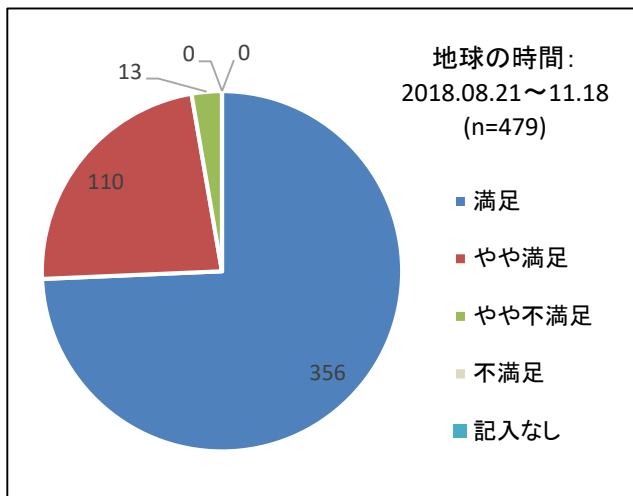
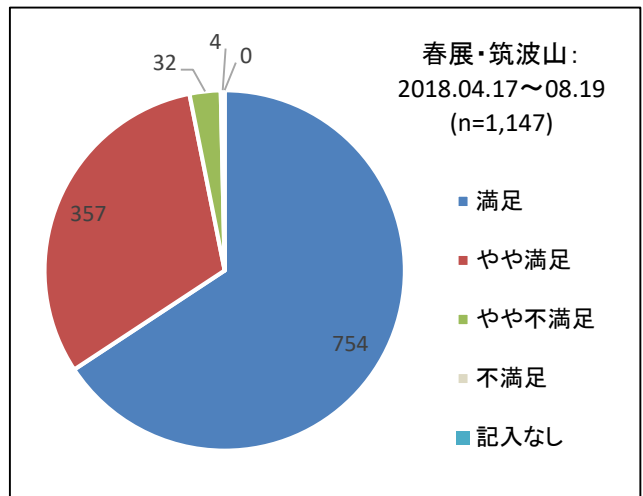
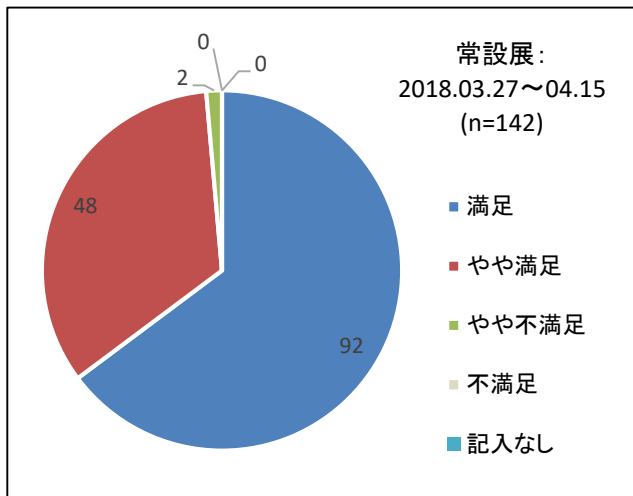


第28図 来館のきっかけ(期間ごと)

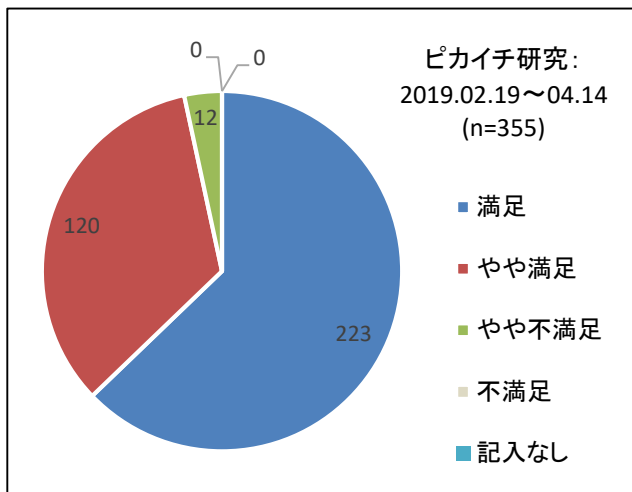
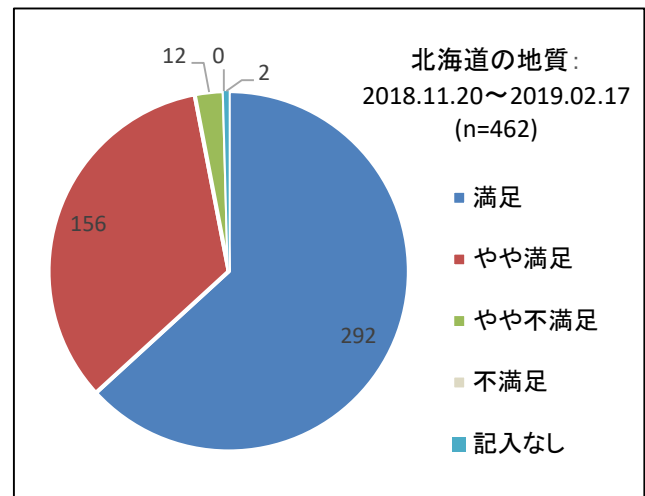
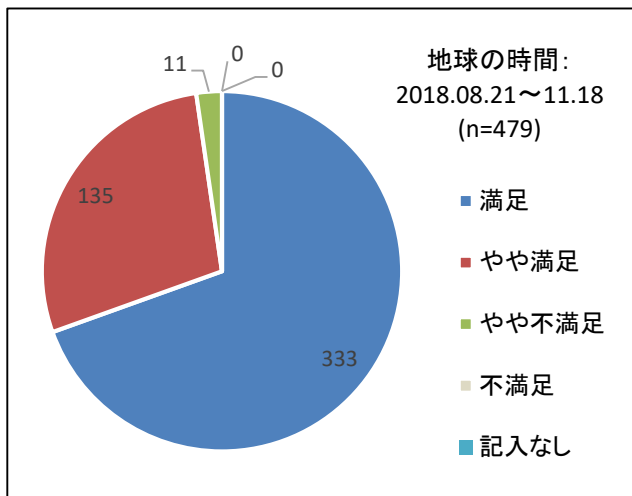
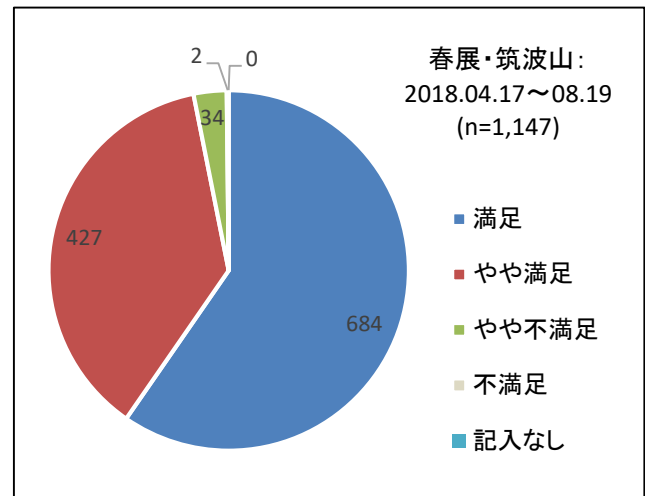
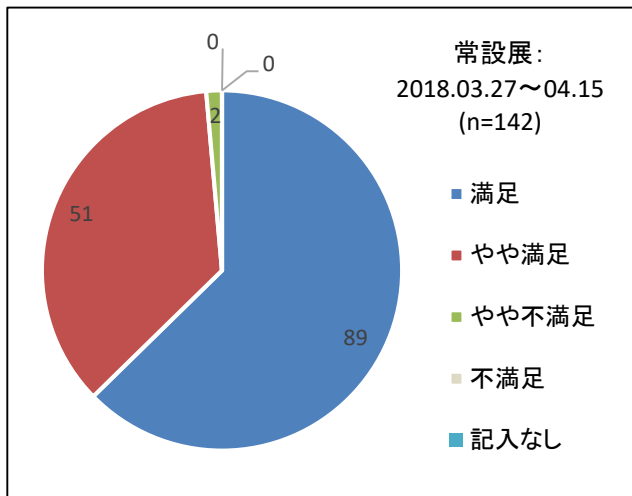
常設展： 2018.03.27～04.15 (n=352) 春展・筑波山： 2018.04.17～08.19 (n=2,599) 地球の時間： 2018.08.21～11.18 (n=1,145) 北海道の地質： 2018.11.20～2019.02.17 (n=1,141) ピカイチ研究： 2019.02.19～04.14 (n=857)



第29図 興味を持った展示テーマ (期間ごと)

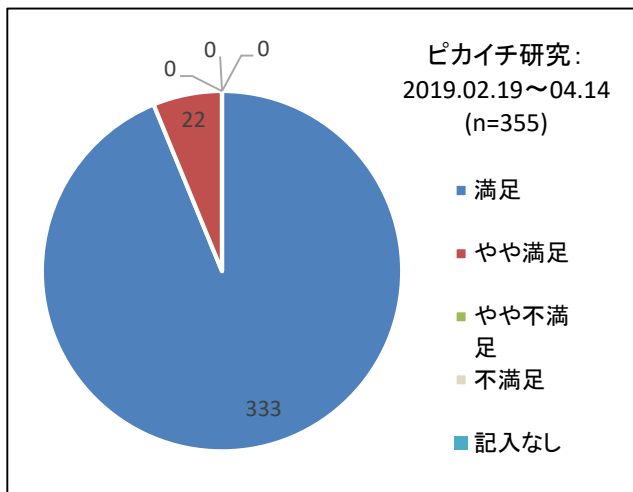
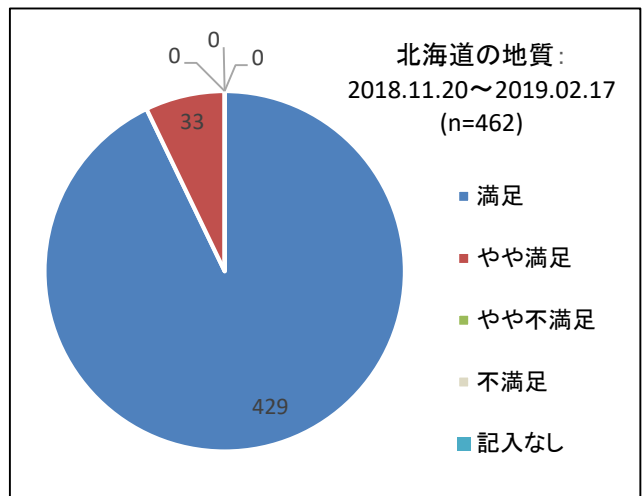
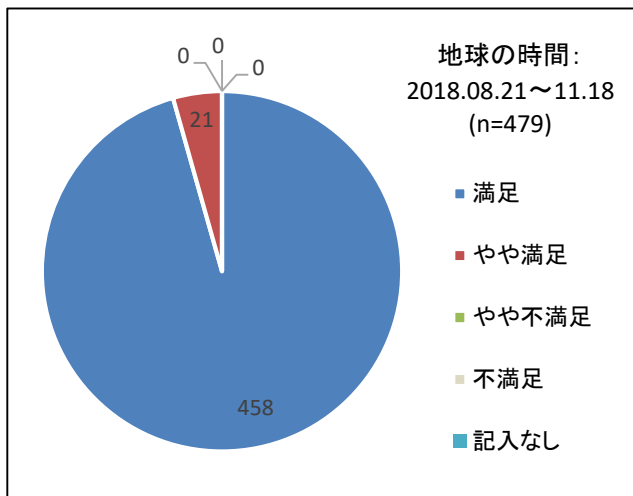
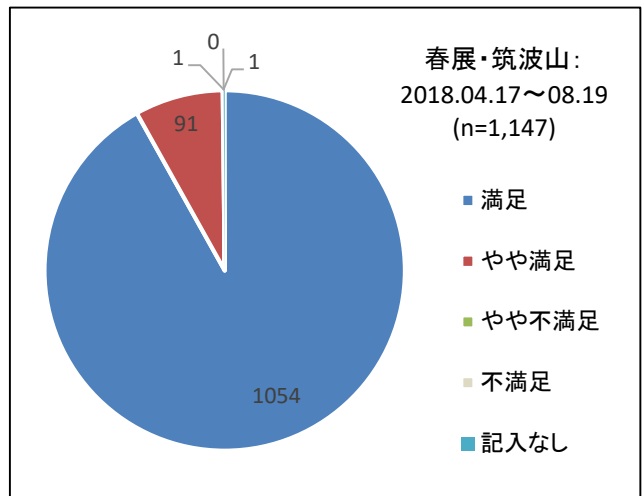
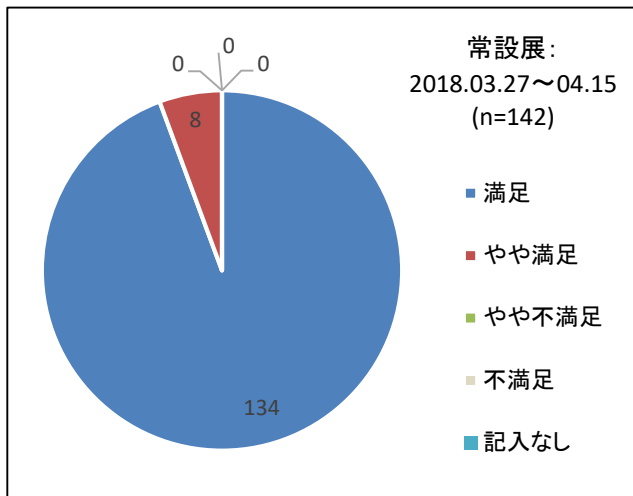


第30図 展示物について(展示の仕方)(期間ごと)

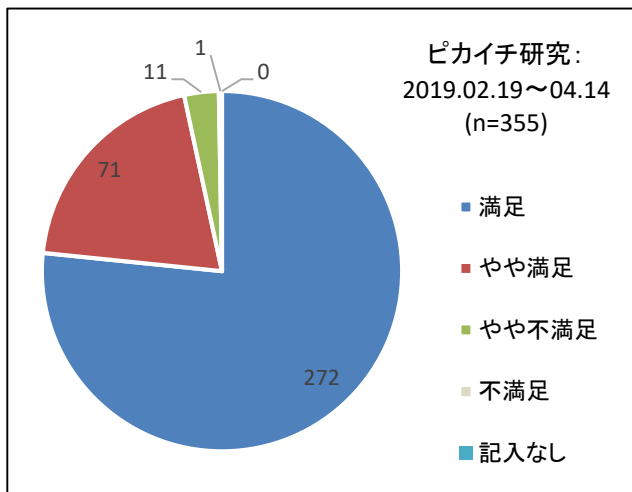
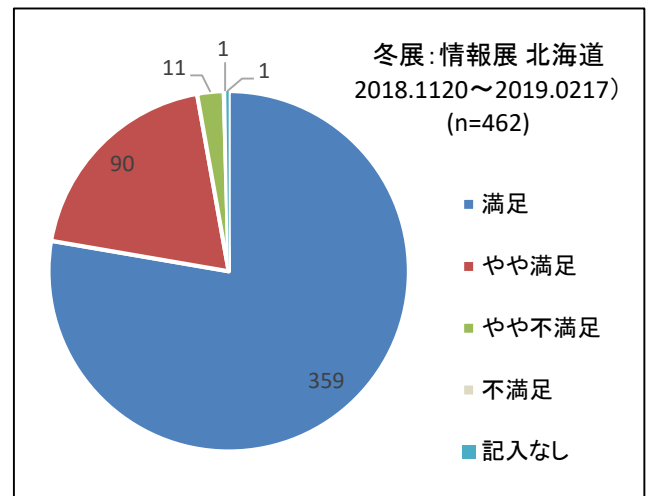
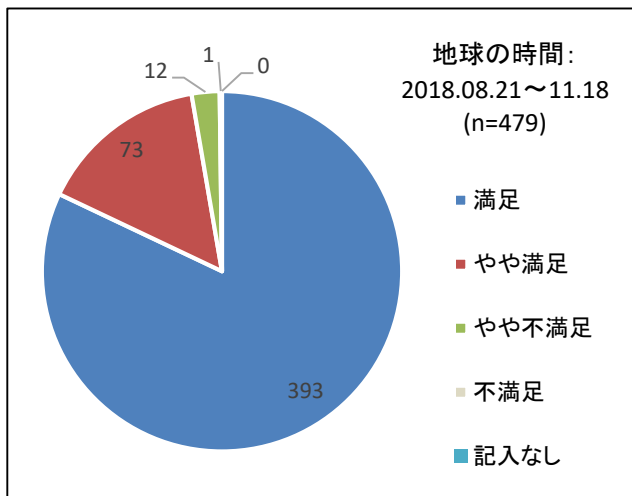
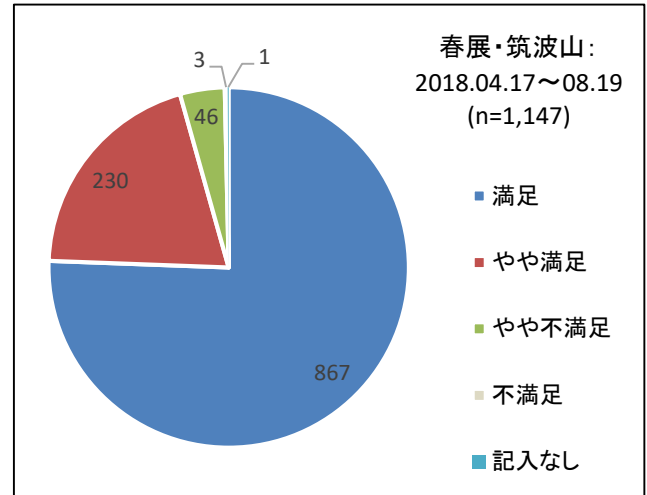
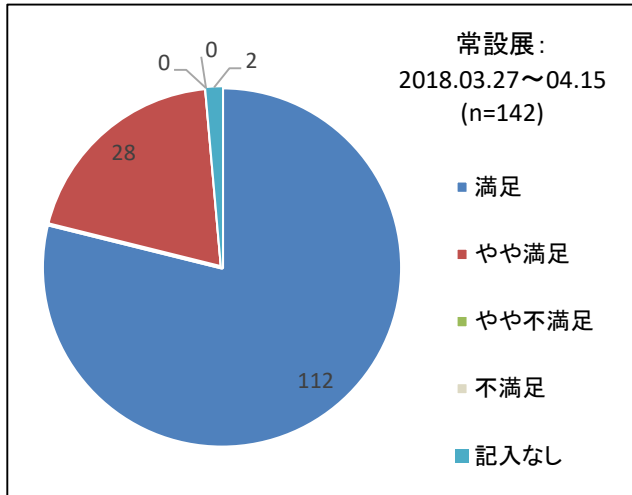


第31図 展示物について(機器の使い勝手)(期間ごと)

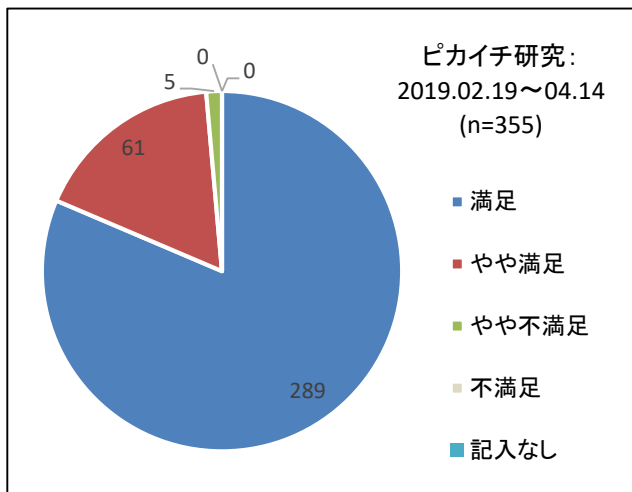
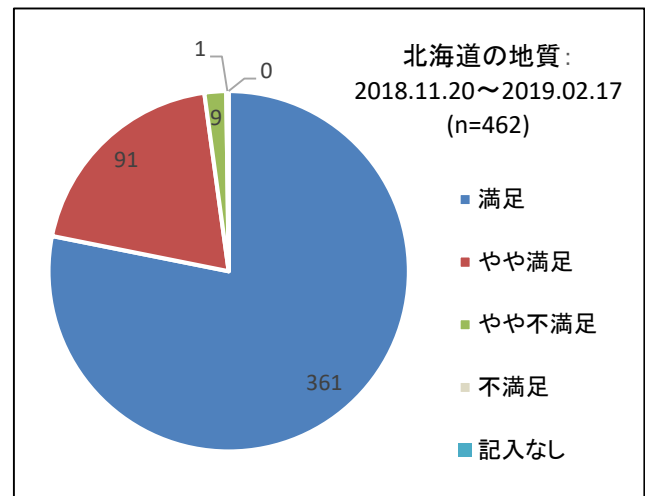
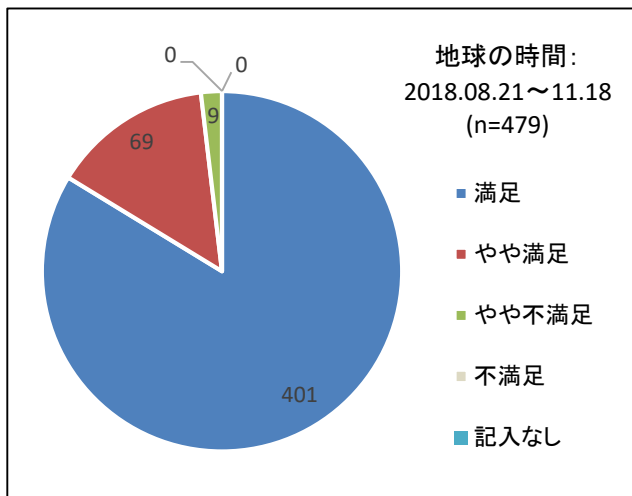
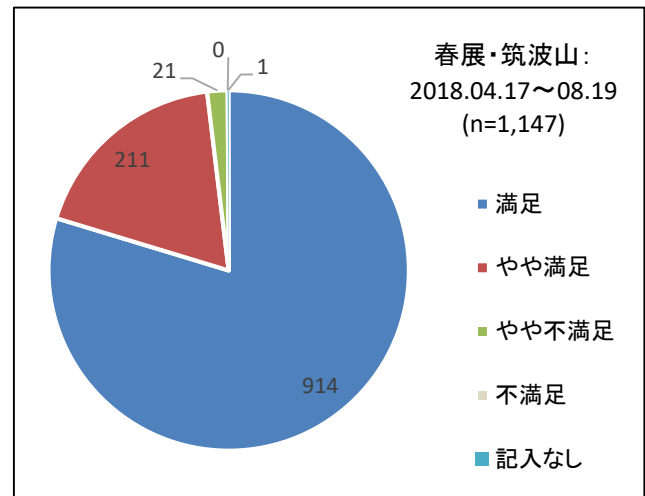
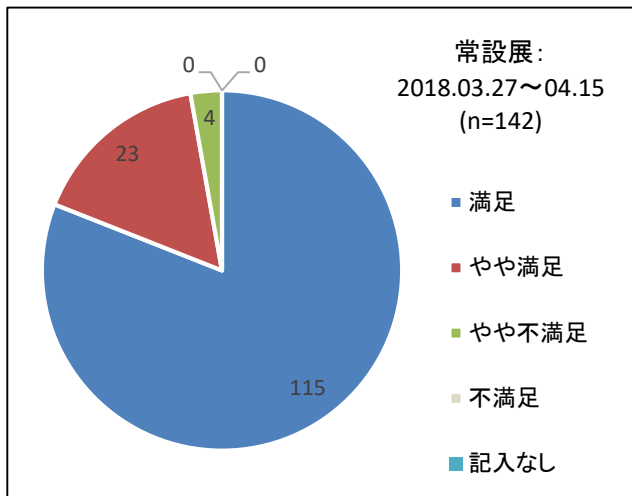




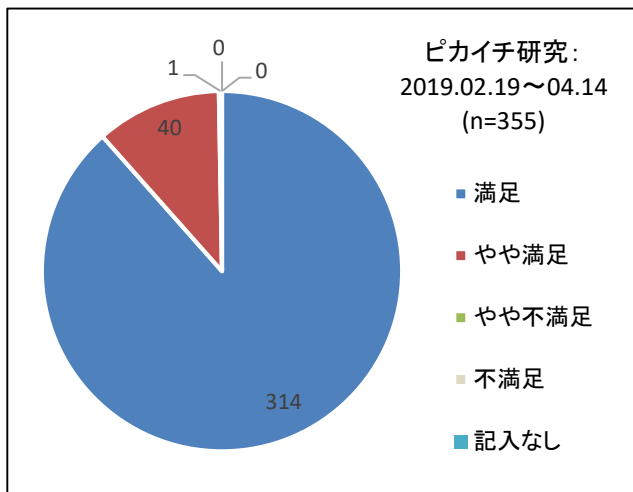
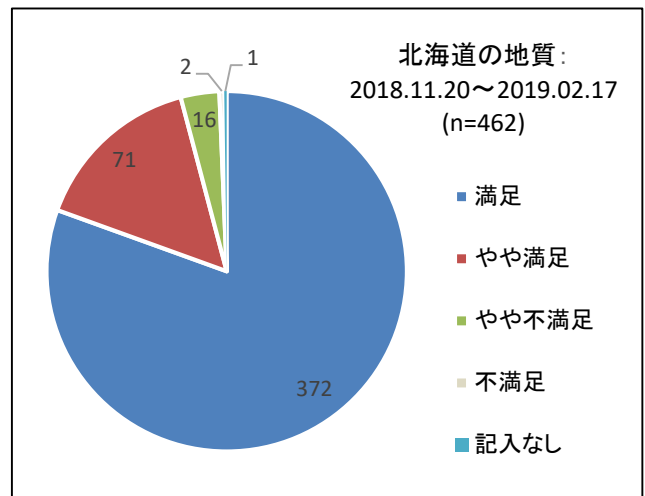
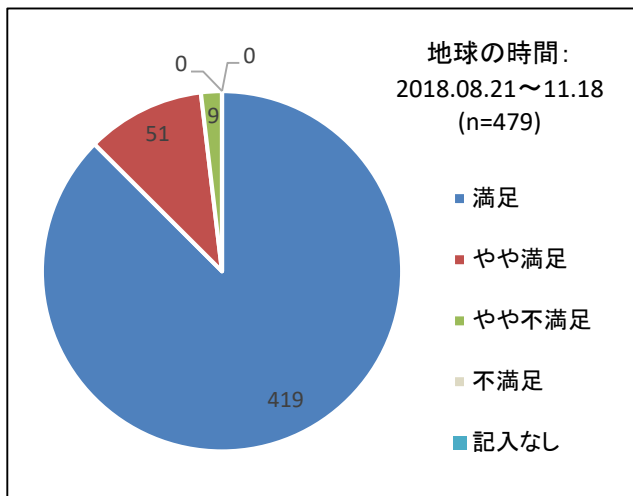
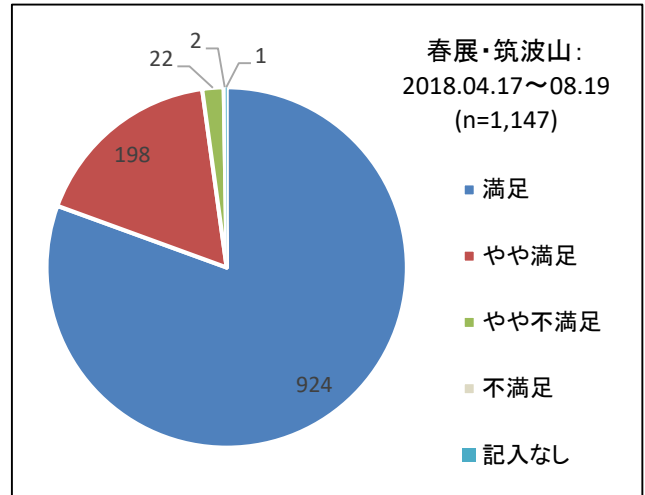
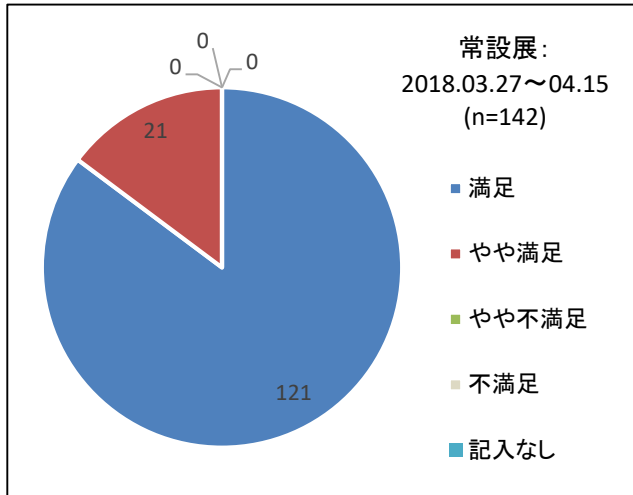
第32図 建物やサービスについて(受付の対応) (期間ごと)



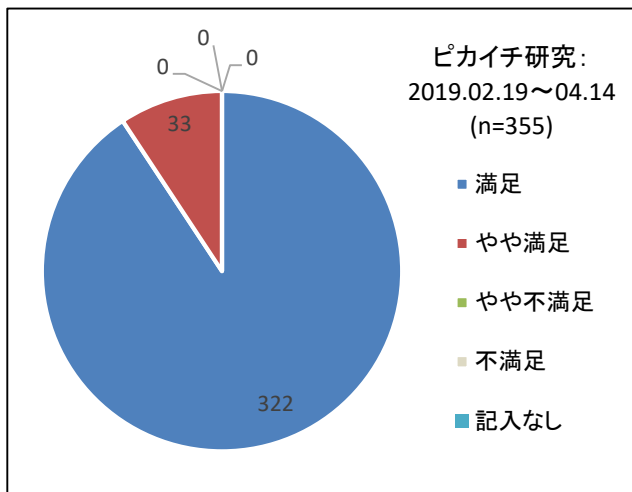
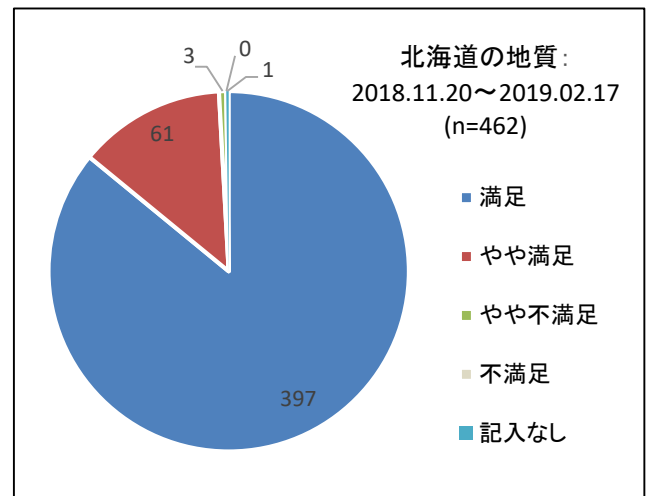
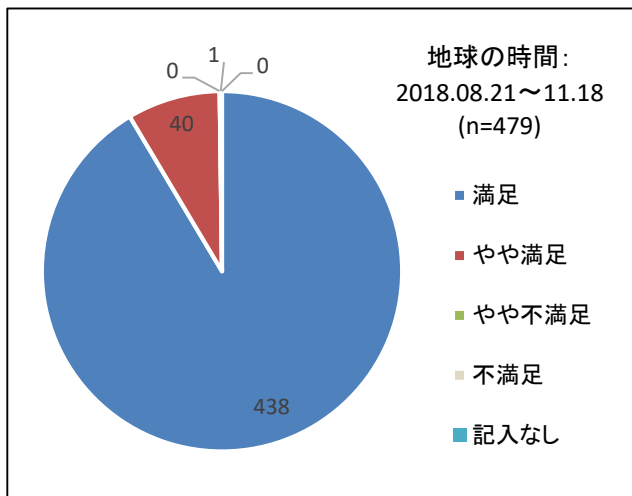
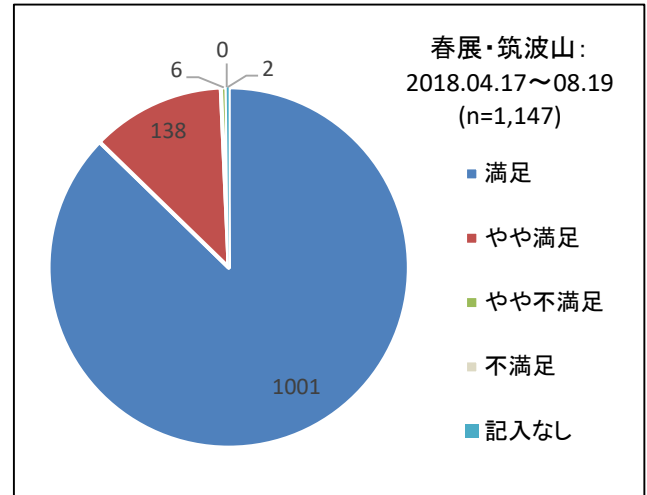
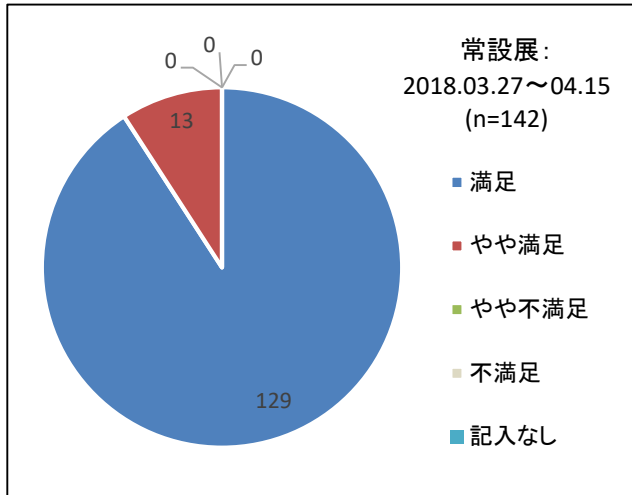
第33図 建物やサービスについて(案内表示) (期間ごと)



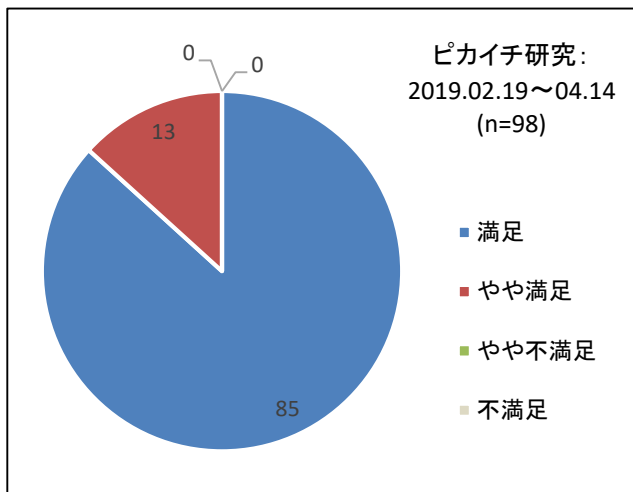
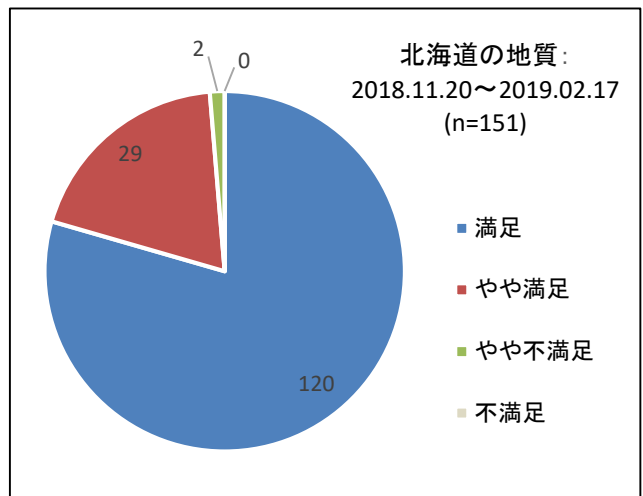
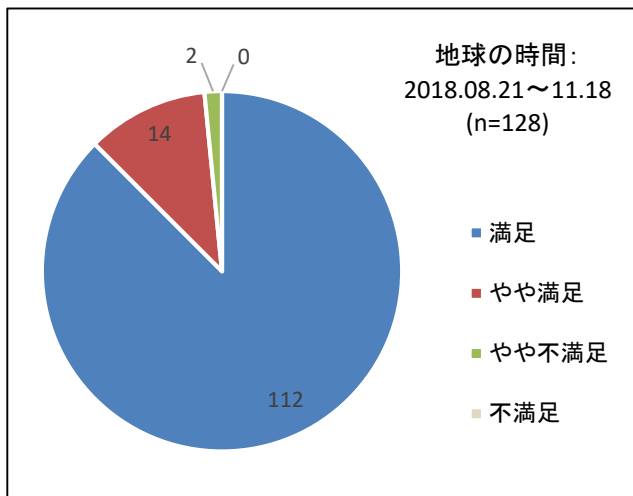
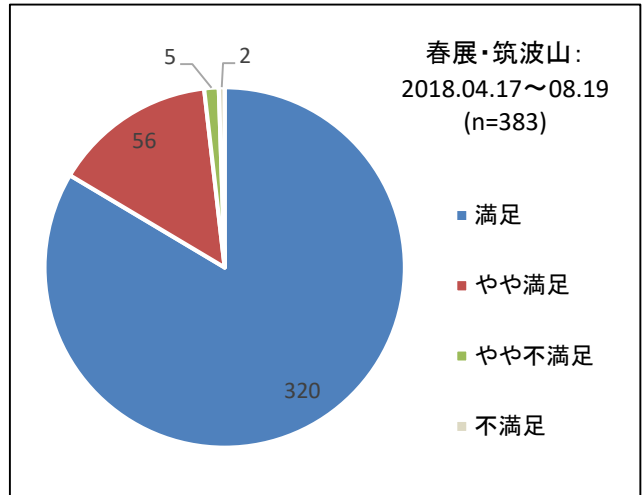
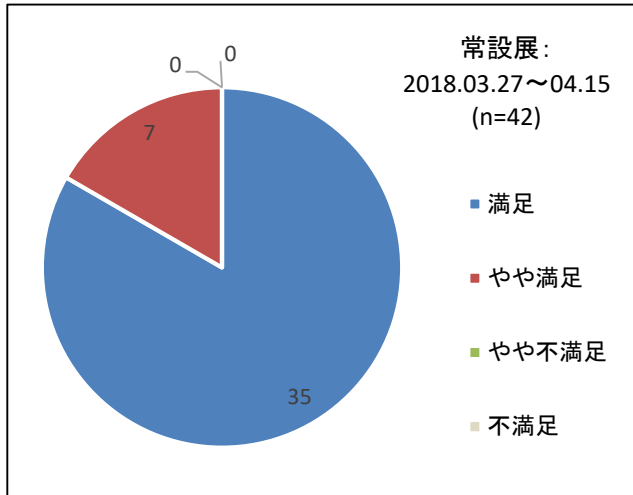
第34図 建物やサービスについて(館内の明るさ) (期間ごと)



第35図 建物やサービスについて(空調温度) (期間ごと)

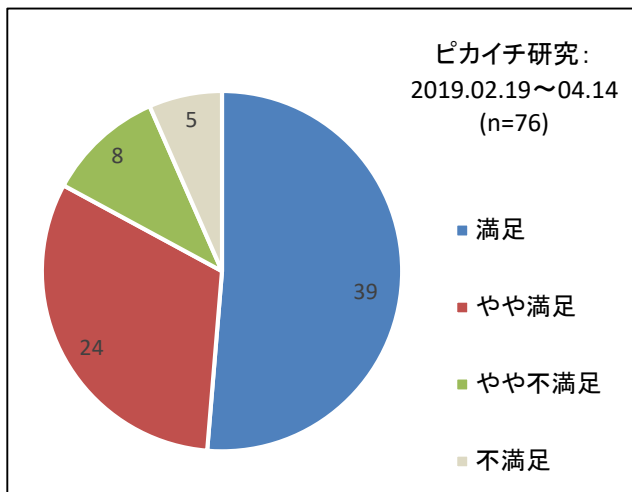
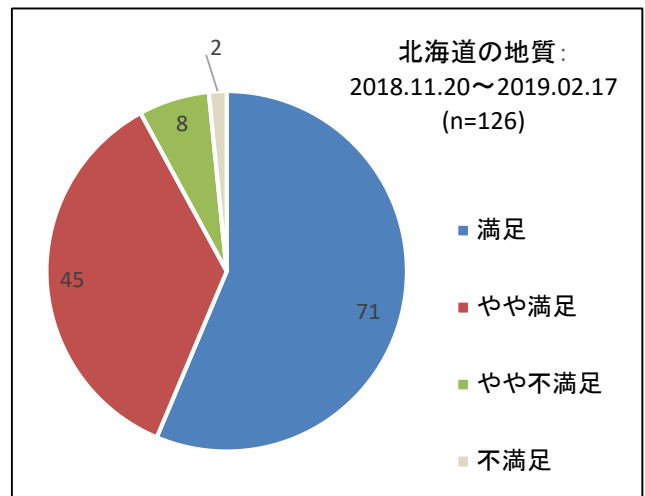
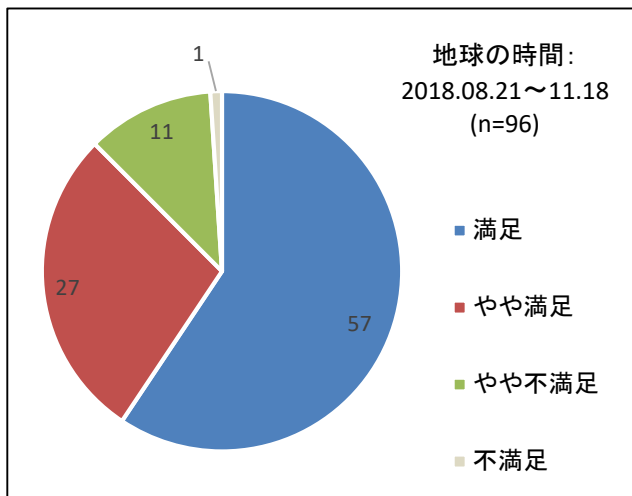
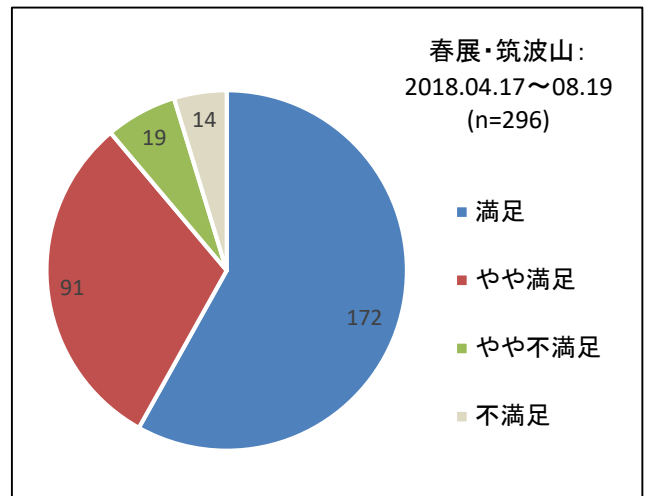
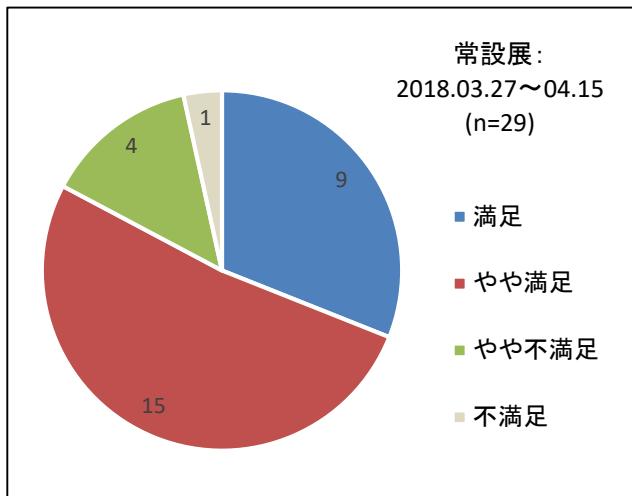


第36図 建物やサービスについて(清掃) (期間ごと)

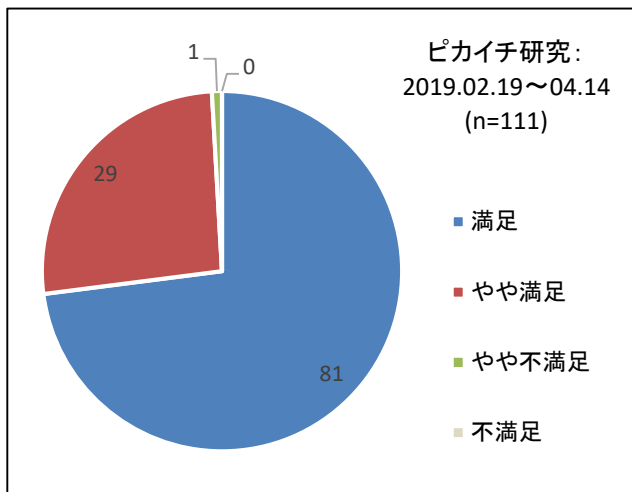
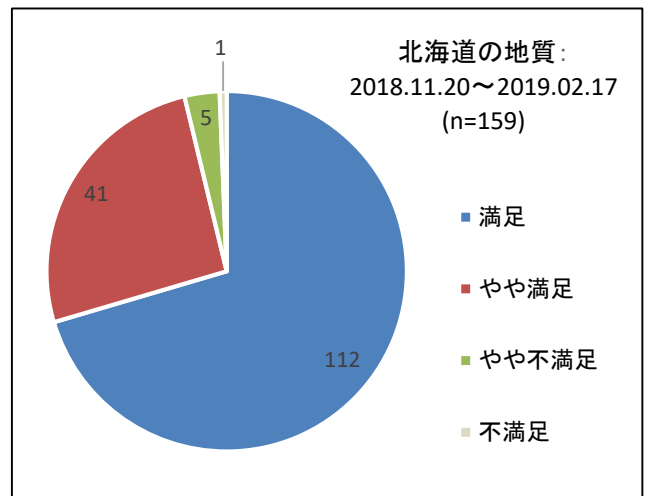
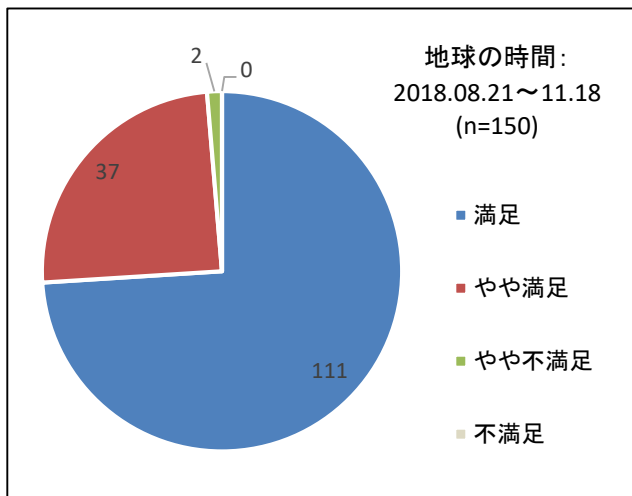
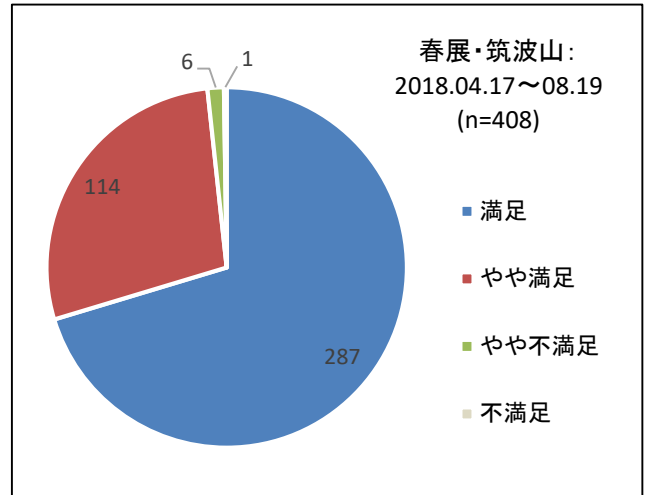
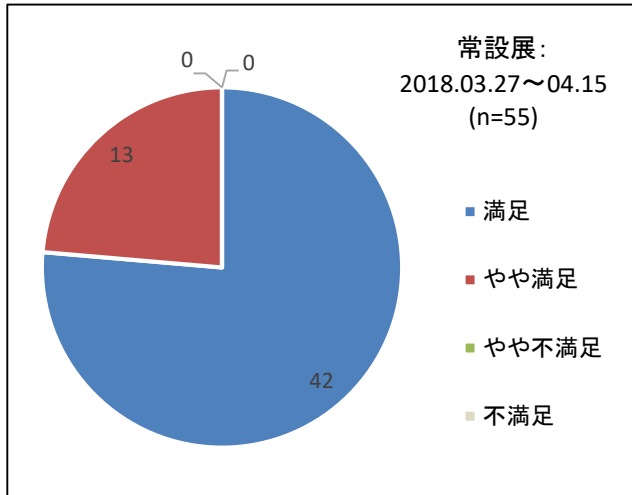


第37図 解説サービスについて(解説案内) (期間ごと)





第38図 解説サービスについて(QRコード解説) (期間ごと)



第39図 解説サービスについて(標本館クイズ)(期間ごと)

地質調査総合センター技術資料集 11

# 地質標本館の来場者 アンケート分析

(2018 年度)

2019 年 12 月

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 地質情報基盤センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

【執筆・集計担当】 兼子尚知・利光誠一・朝川暢子・谷島清一・下川浩一  
佐藤隆司・高橋 誠・高田 亮・林 和彦・常木俊宏  
五十嵐幸子・上野香緒里・宮本 晃之・森田澄人

【レイアウト担当】 朝川暢子

【問い合わせ】 <https://www.gsj.jp/inquiries.html>

本報告書は産業技術総合研究所地質調査総合センターの組織著作物です。

「政府標準利用規約（第 2.0 版）」準拠



産業技術総合研究所 地質調査総合センター  
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7  
<https://www.gsj.jp/>

AIST 15-G00002-11